

アオインオン株式会社

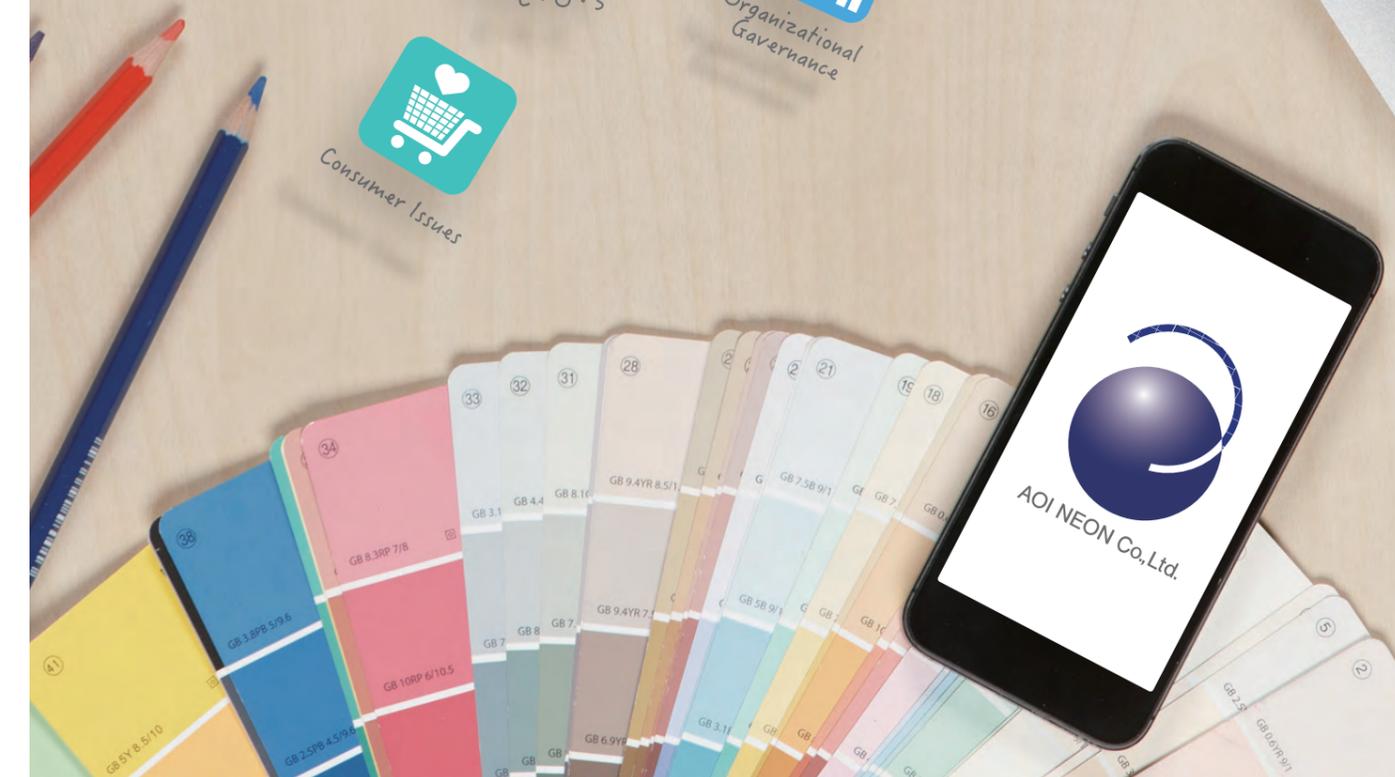
一級建築士事務所 特定建設業許可（国土交通大臣）
ISO14001:2004（東京・静岡・大阪） ISO9001:2008（東京・静岡・大阪） 認証取得



【発行日】2016年12月

CSR

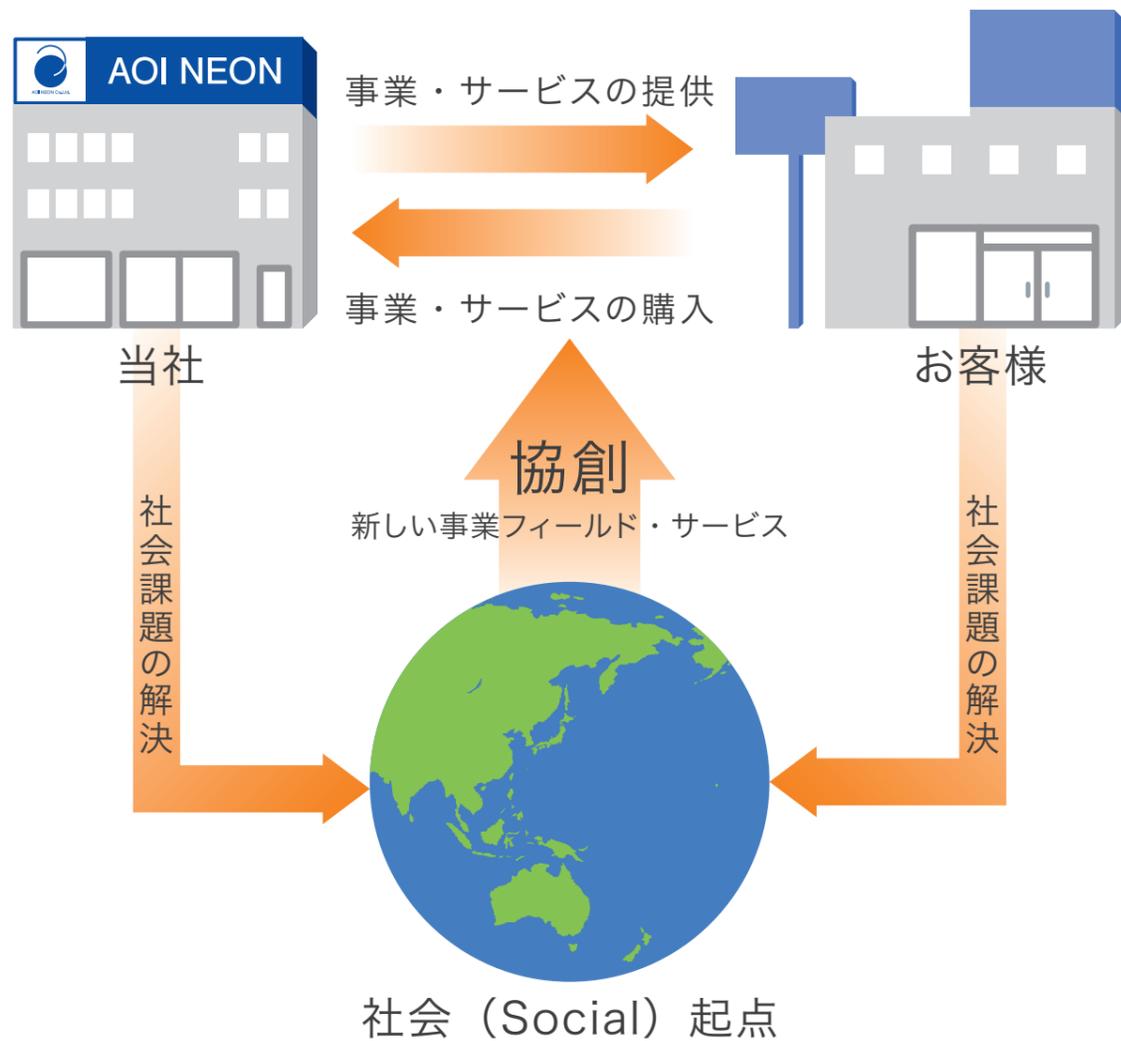
aoineon CSR report 2016



アオイネオン CSR Vision



事業起点（自社ソース起点）のみで事業を考えるのではなく
 価値の提供先である「社会課題起点」でも事業を考える



アオイネオン CSR 特設 WEB サイト
<http://aoineon.co.jp>



Top Commitment



『協創』による
 新たな価値創造を目指して

CSRレポート 2016 の発行にあたり、ご挨拶申し上げます。

2016年4月、国土交通省により『屋外広告物条例ガイドライン(案)』の改正が発表されました。同ガイドラインでは、2015年2月に発生した札幌での看板落下事故などを受け、看板の所有者等が一定の資格者に点検をさせ、看板を良好な状態に保つ義務が規定されました。私たちサイン業界は、安全安心な街並みの実現によって国民の生命を守るという使命を負っています。弊社は、点検診断を始めとする事業の更なる技術力向上を図り、その使命を全うして参ります。

CSR事業については、企業としての基本的な責任として、人権、労務管理、企業倫理、財務などの課題を「守りのCSR」と定義づけ全従業員で取り組みました。また一方で製品の開発や販売などに環境や社会への影響を考慮し、社会課題の解決に繋げる活動を「攻めのCSR」と定義づけ、この二つを経営戦略の両輪として推進して参りました。

また、一昨年からCSRコミュニケーションの実践を継続して推進して参りました。企業・行政・学生・NPOなど多くの方々との積極的な交流によって様々な協同体が誕生し、そこで志を同じくする仲間から多くの刺激を受け大いに学ぶことができました。

これからの弊社の新たな目標は、CSRコミュニケーションから生まれた協同体を、事業の中核のひとつとし、新たな価値を生み出す『協創』に発展させることです。お客様に喜んでいただける事業の実践と併せて、社会の要請に応じていくために、社外のあらゆる方々との中長期にわたる『協創』を生かしていきます。特に資源の限られる中小企業にとって、事業を後押しし、企業価値を高め、企業をより持続可能にしてくれるものと考えます。

本レポートでは『協創』を目的としたCSRコミュニケーションの事例をいくつかご紹介いたしました。まだまだ未熟ではありますが、14冊目になりましたCSRレポートをご覧いただき、当社の活動に対する忌憚のないご意見を賜ることができましたら幸いです。

代表取締役社長 横山 巖

コミュニケーションツールのご紹介

アオイネオンは、さまざまなかたちでステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを進めています。

高い

内容の網羅性

CSR活動について
CSRレポート



アオイネオンが果たす社会的責任について紹介するレポートです。

総合的な情報について
ホームページ



アオイネオンに関する情報を幅広く紹介しています。

URL <http://www.aoineon.com>

総合的な活動について
Facebook



FacebookでCSR活動をタイムリーに公開しております。

製品・サービスについて

看板ドクター®
看板マネジャー® パンフレット



『看板ドクター®』、『看板マネジャー®』のサービスに関する詳しい情報を紹介しています。

製品・サービスについて

C・O・S® パンフレット



『C・O・S® (カーボン・オフセット・サイン)』に関する情報を詳しく紹介しています。

製品・サービスについて

アオイネオン ショーケース



施工事例や新商品・サービスに関する情報を紹介しています。

CSR活動について

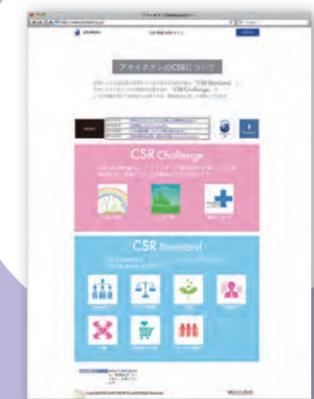
Twitter



CSRコミュニケーションの試みとして公開しております。

CSR活動について

CSR特設WEBサイト



アオイネオンのCSRに関する情報を幅広く紹介しています。

URL <http://www.aoineon.co.jp>

企業活動全般について

会社案内



アオイネオンの目指す企業像、事業の現状を紹介する会社案内です。

業務許認可・資格について

ライセンスレポート



お客様に安心してご発注して頂くために、工事に必要な許認可や資格についてご説明しております。

冊子で報告

WEBサイトで報告

公開範囲

最新

アオイネオンのCSRについて

本レポートでは、アオイネオンのCSRを大きく二つに分けてご紹介します。
 企業として社会的責任を果たすための基本的な取り組み『CSR Standard』と、アオイネオンならではの積極的な取り組み『CSR Challenge』です。
 私たちは二つのCSRを通じて、社会から支持される「価値ある企業」を目指します。

CSR Challenge

事業活動を通じて社会的課題解決に貢献するための積極的な取り組みです。



CSR Standard

社会的責任を果たすための基本的な取り組みです。

ISO26000「7つの中核主題」



目次

アオイネオン CSR Vision	01
Top Commitment	02
コミュニケーションツールのご紹介	03・04
アオイネオンのCSRについて	05
目次	06
COS TREE	
ステークホルダーとの7つのコミュニケーション	07
お客様とのコミュニケーション	08
お取引先とのコミュニケーション / メディア・有識者とのコミュニケーション	09
CSR企業・NPOとのコミュニケーション	10
学生とのコミュニケーション / 従業員とのコミュニケーション	11
行政とのコミュニケーション	12
Neon Fun	
ネオンの創造性で社会に幸せなムーブメントを起こす	13
千葉いすみ鉄道「鳥取震災支援列車」のヘッドマークをネオンで製作	14
近年最大級のネオン塔は“CO2 排出ゼロ” 市川園様	14
第21回エコメッセ in ちばに初出展「ネオンファニチャー」	14
コミュニケーションファクトリーのシンボルは「ネオンサイン」	14
C・O・S	
『省エネ×オフセット』で継続的な環境配慮を実現	15
看板の省エネ改良 / 第三者によるカーボン・オフセットの証明 / 第三者意見	16
カーボン・オフセット表彰の受賞 / 第9回 CO-Net 公開セミナー登壇	17
平成27年度 二酸化炭素排出抑制事業認定 / カーボン・オフセットサインで復興支援	17
ご採用事例	18
看板ドクター® + 看板マネジャー®	
検査員コメント / 看板点検の基準 / 看板点検の方法 / 看板の点検業務内容	19
検査・診断の流れ / 診断機器と独自の検査システムでお客様の負担を軽減	20
診断結果基準 / 9年間で3,560件 8,100アイテムの実績	21
【特集】樹木医診断×看板診断 “街の「安全・安心」を考える”	22
「より多くの情報」を「より分かりやすく」、「誰にでも」	23
法令チェックを怠りません / 『不動産ソリューションフェア』出展	24
『不動産経営者倶楽部・管理部会 勉強会』登壇	24
組織の統治	
コンプライアンス方針に基づく企業活動の推進	25
「企業倫理に関する方針」「行動規範」の制定	25
公正な事業慣行	
社内体制	26
経営方針発表会	26
CSR委員会	26
報告・相談への対応の流れ	26
ライセンスレポートによるご説明	27
建設業許可と専任技術者	27
屋外広告業の登録	27
第三者によるCSR監査	28
情報セキュリティ基本方針	28
環境	
環境マネジメントシステムへの取り組み / 社内教育の実施	29
TV会議を採用 / しずおか未来の森サポーター	29
アオイネオンの環境方針	30
主な環境影響と保全活動	30
2015年度 環境目標に対する実績	31
環境会計	32
労働慣行	
安全衛生委員会 2015年度目標と結果	33
安全衛生委員会の主な活動と組織体制	33
アオイネオン安全大会 / 作業環境測定	34
経営層による現場の安全パトロール / 安全優良者表彰	34
緊急事態への対応	34
Interview (光伸工業 渡邊様)	34
「資格取得支援制度」で社員のプロフェッショナル化を支援	35
人材育成の考え方	35
MUD (メディア・ユニバーサル・デザイン) 教育検定	35
ボランティア休暇制度	35
基本的人権の尊重に対する取り組み	36
ワーク・ライフ・バランスの推進 / 社内コミュニケーションセミナー	36
消費者課題	
品質管理に関する監査	37
社内セミナー	37
『資格・教育プロジェクト』による人材育成	37
アオイネオンの品質方針	38
すべてのプロセスで品質保証を徹底	38
コミュニティへの参画及びコミュニティへの発展	
グリーンバードプロジェクト	39
共同違反広告除去活動	39
大正湯 足場材丸太のリサイクル	40
『小さな親切運動』	40
『使用済み切手の収集活動』 / 『エコキャップ運動』	40
Interview (東京本社 荒川 郁弥)	40
2016年 CSR 行動計画 守るCSR (40項目)	41・42
伸ばすCSR (20項目)	43
弊社のCSR活動に対する第三者評価	44
編集方針	45
たくさんのご意見・ご要望いただきました / 企業概要	46



未来をカタチにする『COS TREE』

「この先も私たちが暮らす社会が豊かなものであってほしい」一人ひとりの思いや行動が集まり、やがて大きな森になる。私たちは、社員によるボランティア活動やチャリティへの参加、NPOや自治体と連携したイベントの参加など、様々なステークホルダーとのコミュニケーションを通じて「アオイネオンのCSR」を伝えることでCSR活動の幅を広げていきます。



ステークホルダーとの7つのコミュニケーション



Communication

お客様の満足度と信頼の向上

お客様

【株式会社あさひ様】

2015年に3店舗（海老名店・中川店・八幡東店）のC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン®）をご採用いただき2016年には、16店舗（羽曳野店、富士店、三島店、磐田店、鎌倉手広店、春日井店、小田原店、各務原店、小牧店、半田店、堀田通店、長野高田店、浜松店、掛川店、サンストリート浜北店、南宮崎店）ご採用いただきました。オフセットされたCO₂は53t-CO₂です。沢山の店舗でご採用いただきありがとうございます。

CO₂ オフセット合計

53 t-CO₂



Interview



株式会社あさひ
店舗開発部 店舗開発セクション
東日本エリア 課長 川端三法様

青嶋: 弊社のC・O・S®（カーボン・オフセット・サイン®）をご採用くださりありがとうございました。ご採用いただいたポイントをお聞かせください。

川端様: 店舗の照明等にLEDを採用する、太陽光を利用するなどの環境対応が世の中では当たり前になってきていると感じており、なにか他とは違うものを打ち出したいと考えていました。消費電力に起因するCO₂をカーボン・オフセットによりゼロにするという看板は他にはなく、なおかつ煩雑な手続きが不要で簡単に導入できるというのが採用のポイントでした。

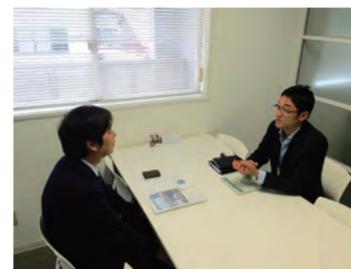
青嶋: 御社の事業施策の軸として「お客様の、自転車と共存する生活」というキーワードが示されていますが、店舗づくりや看板にも関係があるのでしょうか？

川端様: 顧客を消費者やユーザーとしてだけでなく生活という広い視点から事業展開を考えた場合に店舗開発は自転車周辺のインフラ整備全般に関わってくると考えています。付随する看板も安全で順法なのは当然ですが、環境や社会性にも配慮する必要があると考えます。

青嶋: 今後の展開をお聞かせください。

川端様: 私どもの事業は人々の生活に密着しています。全国に多店舗を展開する企業として地域や環境に与える影響は大きいと考えます。新店舗に限らず、既存店舗での省エネ化やカーボン・オフセットなども視野に入れていきたいと考えています。

青嶋: 貴重なご感想をお聞かせいただきありがとうございました。今後共よろしくご協力致します。



Communication

公正な取引と持続可能な社会実現に向けた協働

お取引先

【ACA (アオネオンCSRアワード)】

『ACA (アオネオンCSRアワード)』は、CSRの意義と取り組みへの理解を社内外に広く浸透させることを目的とし、特に顕著な功績のあった個人又は団体に対し、その功績をたたえ表彰する制度です。

弊社従業員の投票により、本年度は弊社駅伝部とリレーマラソンへの参加を通じて、弊社のCSRの浸透に大いなる貢献していただいた(有)エム・プランニングサービス様が受賞しました。同社のご尽力につきまして、弊社静岡本社にて記念のトロフィーと感謝状を贈呈させていただきました。



Interview



表彰していただきありがとうございます。賞状をいただくのは高校時代以来です(笑)

マラソン大会や清掃活動など、お仕事以外の場面でも声を掛けていただけることが大変嬉しく、そういった活動を通じたコミュニケーションが仕事でも良い結果に繋がっていることを実感しています。

今後ともよろしくお願致します。

有限会社エム・プランニングサービス
代表取締役社長 前島 一 様

Communication

中立的な評価による信頼性の向上

メディア
有識者

【ラジオ出演】

かわさき FM (79.1MHz) 『ソーケン有吉のソーシャルライフ“本業ど真ん中”』に出演させていただきました弊社CSR活動についてお話をさせていただきました。



【CSRコミュニケーションセミナー】

日経印刷様主催のCSRセミナーにパネリストとして登壇させていただきました。有識者の皆様とCSRコミュニケーションについてディスカッションさせていただきました。

(アマタ(株)猪又陽一氏、RAUL(株)江田健二氏、CSRコンサルタント安藤光展氏)

【雑誌掲載】

サイン・ディスプレイ業界紙「POP EYE」の“業界のきらりEYE”のページに静岡本社 企画設計部の小澤さんが現場で活躍する女性として紹介されました。



Communication

交流、意見交換による具体的課題の認識

CSR企業
NPO

【熊本震災支援】

(株)GreenProp様(福岡市)のご協力で、弊社福岡営業所より熊本地震の被災地に支援物資をお送りさせていただきました。熊本地震で被害に遭われた皆様に改めて心よりお見舞い申し上げます。



【石井造園「CSR報告会」】

横浜型地域貢献企業の石井造園(株)様が開催する『CSR報告会』に参加させていただきました。緑日のような会場には多くの近隣の皆さんが集まり、CSR活動報告を熱心に聞いていました。地域とのつながりを大切にし、事業活動を通じて地域に恩返しするというCSR活動に感銘を受け、多くを学ばせていただきました。



【建設業CSR交流会】

建設業CSRのコミュニティとして、総合建設業、住宅、造園、自動ドア、内装、道路、看板など様々な職種の企業による交流会に参加しました。ワークショップではCSR推進の課題やこれから取り組みたいことについて意見を出し合いました。今後、様々なカタチでのコラボレーションにより社会課題解決を起点とした新しい事業を創造します。



【MUD「メディア・ユニバーサルデザイン」】

(株)大川印刷様にてMUD(メディア・ユニバーサルデザイン)について学ばせていただきました。高齢者、色覚障がい者など個人差や年齢等に関係なく、できるだけ多くの方に正しく情報が伝わるように、見やすく分かりやすいデザインにしようという考え方は印刷物のみならず、看板にも応用したいと思います。



【ブリッジフォースマイル「児童養護施設等アフターケア事業」】

NPO法人ブリッジフォースマイル様、(株)ソーケン製作所様とご縁から、横浜市が主催する児童養護施設等アフターケア事業として、施設退所者等が気軽に立ち寄れる居場所「よこはまPort For」にて開催された交流会に参加させていただきました。



【日比谷アメニス「港区立六本木西公園リニューアルイベント」】

(株)日比谷アメニス様が施工を担当された、港区立六本木西公園のリニューアル記念イベントに参加させていただきました。剪定された木の枝でバッジ工作、防災トイレやかまどベンチの実践体験、建設機会の試乗体験などで地域住民との交流を大切に「現場CSR」を学びました。



【日立製作所「社会イノベーション事業体験」】

(株)日立製作所様の社内研修に参加させていただきました。社会課題を起点とした新しい協創ビジネスを導き出すグループワークです。とにかく社員の皆さんのモチベーションが高いことに驚き、社会課題からビジネスインパクトを導き出す手法を学ばせていただきました。



【コカ・コーラウエスト「とす さわやか自然の森」森林保全活動】

コカ・コーラウエスト(株)様が主催する「とす さわやか自然の森」森林保全活動に弊社従業員と家族も一緒に参加させていただきました。当日はあいにくの雨天のため、会場を鳥栖工場に移し、マイ箸作りや丸太切りに挑戦しました。木工体験を通じて、いろいろな機能を持つ森林について、広く理解を得るきっかけとなりました。



Communication

産学連携による新しい価値の創出

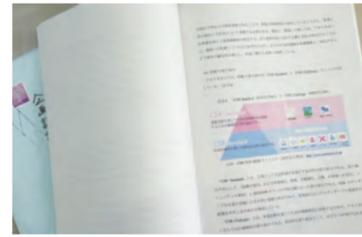
学生

【町田デザイン専門学校『ネオンデザイン実習』】

学校法人東京町田学園 町田デザイン専門学校様では、授業の課題として「ネオンデザイン」を取り入れていただいております。実学報告会には弊社も参加させていただき、地域の活性化や自然環境との調和など、学生さんの斬新なアイデアの数々に私たちが気付いていなかったネオンサインの新しい可能性を発見する機会となりました。



【静岡県立大学『CSR研究』】



昨年弊社を訪問された静岡県立大学の学生様の卒業研究に弊社のCSR活動を事例として取り上げていただきました。テーマは『中小企業の戦略的CSR(企業の社会的責任)に関する研究』です。70ページにおよぶ論文には、中小企業の『企業価値』と『社会価値』の両立の可能性、効果的に取り組む条件などが詳しく研究されています。また、同論文は学内の優秀論文に選出されたことをご報告をいただきました。微力ながら研究の一助になれたのであれば幸いです。

【武蔵野大学エコレポートウェイ21】

産学連携CSRプロジェクト『武蔵野大学 エコレポートウェイ21』で活躍される学生の皆様と意見交換会をさせていただきました。これまで様々な企業に訪問してCSR報告書や活動を研究されている学生さんの体験談や、サロンを会場としてご提供くださった株式会社ソーケン様の様々な社会貢献活動など貴重なお話を聞くことができました。皆さんが弊社のCSRレポートを隅々まで読んでくださっていたことが嬉しかったです。ありがとうございました



Communication

CSR 社内浸透とリーダー育成

従業員

【社内課題解決のためのワーキンググループ活動】

社内からの有志により構成されたCSR委員会による5つのワーキンググループが、社内の様々な課題を解決するための活動をしています。定期的に行われるTV会議を活用し、部門や階層、地域を越えたチームワークで働き方や社内制度の見直しを推進しています。



- WG1: ボランティア休暇制度構築
- WG2: ノー残業デーの徹底
- WG3: ストレスチェック実施
- WG4: 社内5S活動推進
- WG5: BCP(事業継続計画)策定

Communication

産官民連携による地域社会の活性化

行政

【“静岡市看板まち歩き” 清水駅前銀座商店街】

静岡市建築総務課が主催する素敵な看板を探す「看板まち歩き」イベントが静岡市清水区の清水駅前銀座商店街で12月3日(土)開催されました。屋外広告物適正化事業として企画された今回のイベントには、“素敵な看板を見つけよう”をテーマに広告主・看板業者・市民の大人から子供までが参加しました。弊社は、看板の専門家としてイベントに参加させていただきました。



【ふじのくにCSRサミット “静岡市CSRパートナー企業表彰制度”】

11月18日(金)静岡市産学交流センターでふじのくにCSRサミットが開催されました。第1部に『静岡市CSRパートナー企業表彰式』第2部では、分科会(パネルディスカッション)を開催し、CSR先進企業様から取り組み事例などを通じて共有する場になりました。県内外から多くの方々にご参加いただきイベントは大盛況でした。弊社は、準備委員として参加させていただきました。



【『静岡市技術表彰』ロゴマーク制作】

静岡市の表彰制度にデザイン面でもご協力させていただいております。静岡市の新しい技術、ユニークな技術を持った中小企業を対象とした『静岡市中小企業技術表彰』事業が本年度からスタートしました。中小企業を応援する表彰制度として先に始まった『静岡市CSRパートナー企業表彰』に関連性を持たせ、自然界に多く存在し、サッカーボールやナットなど様々なものに使用され、縁起の良い形とされる六角形で技術的なイメージを表現してデザインさせていただきました。表彰企業の証として多くの企業様のお役に立てましたら幸いです。

静岡市中小企業技術表彰
ロゴマーク静岡市CSRパートナー企業表彰
ロゴマーク

【浜松市看板どうでしょうカフェ】

2月26日(金)鴨江アートセンター(浜松市)で開催された看板どうでしょうカフェに参加させていただきました。浜松の街や看板についてワールドカフェ形式で楽しくおしゃべりしながら意見交換するワークショップ。浜松らしさとは何か、良い看板とは何か、など、色々な意見が出揃いました。浜松の景観がどんどん良くなっていくといいですね。



ネオンの創造性で社会に 幸せなムーブメントを起こす

『Neon Fun』

ネオンサインの持つ「創造性」のチカラで、社会が抱える課題の解決に貢献する活動です。「創造性」が生み出す「美しさ」と「楽しさ」が、人の持つ「想像力」に訴えかけ、行動を喚起することで社会に幸せなムーブメントを起こします。現代では希少となったネオン管製作の技術を未来に継承しながら、「参加したい」「やってみたい」と思ってもらえるような活動を通じてネオンファンの輪を広げます。



上段左：2/24 WM 様来社、上段中：4/6 大川印刷様来社、上段右：4/13 ウェルシア様来社
中段左：4/21 ソーケングループ新入社員研修&落合様来社、中段中・右：6/29 町田デザイン専門学校（授業の様子）
下段左：8/26 カルビー様来社、下段：9/30 昭和電工セラミックス様来社、下段右：11/9 カルビー様本社訪問

千葉いすみ鉄道「鳥取震災支援列車」のヘッドマークをネオンで製作

千葉県のいすみ鉄道で『鳥取震災支援イベント』を開催しました。イベントの目玉となったのは、ネオン製のヘッドマーク「ISUMI NEON TRAIN」。ネオン管を使用したヘッドマークは世界初の試みということで、多くの鉄道ファンにも注目され、駅では「撮り鉄」が列車を囲みました。なお、イベント参加費の一部は鳥取の震災支援金として寄付いたしました。



< (株)ソーケン製作所、(株)日本自動ドア、アオイネオン(株) 共同企画 >

近年最大級のネオン塔は“CO2 排出ゼロ”市川園様

静岡市内の新幹線沿線に有るビルの屋上に設置されたネオン塔で、使用されたネオン管は1,214mと近年施工されたネオン塔としては最大級の規模となります。リニューアルされたネオン塔は環境への配慮もされており、消費電力に起因するCO2の排出は、東北被災地の森林保護事業に貢献することで、そこで削減されたCO2と相殺されます。CO2 排出ゼロの広告塔は環境保全のみならず被災地の経済支援にも役立つネオン塔として静岡の街をやさしく照らします。



第21回 エコメッセinちばに初出展「ネオンファニチャー」

世界最高峰の賞を受賞し活躍する建築・空間デザイナーの落合守征氏が、プロデュースした『ネオンファニチャー』はマテバシィ（どんぐりの木）の間伐材を加工したフレームに納められ、家具として生活の中に溶け込みます。木質が固く製材が難しいということで放置され、倒壊などが危険視されるマテバシィの間伐材を使用することで、森林保護や環境保全にも配慮した持続可能な社会に向けたメッセージを発信します。



< 落合 守征デザインプロジェクト、(株)ソーケン製作所、アオイネオン(株) 共同企画 >

コミュニケーションファクトリーのシンボルは「ネオンサイン」

コピーライター 小薬 元氏らが設立した meet&meet。渋谷にある新オフィスのシンボルとなるのは『ネオンサイン』です。特別に2色のガラス管を溶着したネオン管を製作して文字型に加工したネオンサインは小さなイベントも開催できる会議室の壁に設置され、訪れる多くのクリエイターにネオンサインの魅力が伝わる機会を創出します。



企業のブランディングを通じて、より貢献性の高い環境保全活動を実現します。

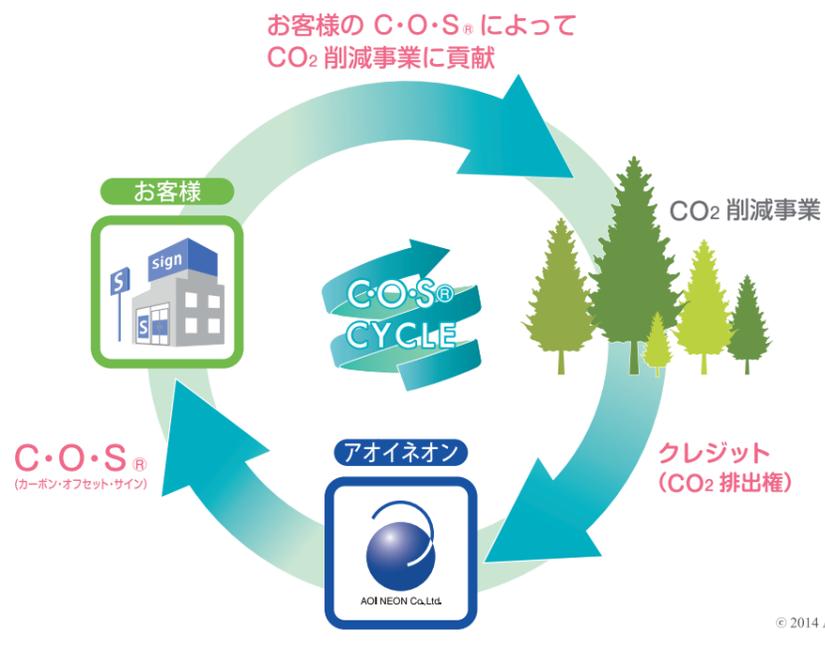
『C・O・S®(カーボン・オフセット・サイン)』



都市景観に配慮した看板の色や形態などのあり方を考えながら、“いかに環境負荷を下げていくか”を重視した製品づくりを通じて、お客様満足の上昇と社会的課題を解決することを目指しています。



『省エネ×オフセット』で継続的な環境配慮を実感



看板は昼夜を問わず情報伝達機能を担っています。夜間は看板を点灯することで街並みを明るくし、都市の活性化や治安の維持にも役立っています。しかしながら、地球温暖化問題や震災後の節電の影響もあり、夜間の看板照明についても可能な限りの省エネが求められています。そこで、私たちは、看板照明にて街を彩りながらも、電力の使用を最小限に抑えたいという思いで、それでも使用しなければならぬ電力を起源とするCO₂をオフセット(相殺)するC・O・S(カーボン・オフセット・サイン)をお客様にご提案していきます。

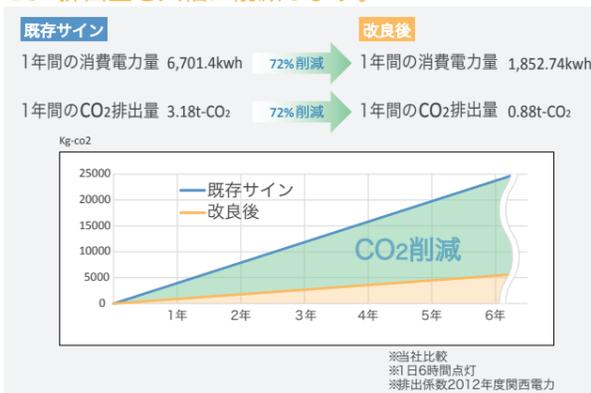
看板の省エネ改良

看板に使用する光源に省電力、長寿命のLED照明を採用し、省エネ設計で改良しました。

消費電力を大幅に削減します。



CO₂排出量を大幅に削減します。



第三者によるカーボン・オフセットの証明

第三者機関より、カーボン・オフセット証明書を発行します。

CheckPoint

- 1 省エネに取り組んでいるか？
- 2 CO₂の排出量が正しく算出されているか？
- 3 使用された排出権(クレジット)が正当なものか？



第三者意見

静岡県地球温暖化防止活動推進センター アドバイザー
静岡大学地域創造学環教授(環境政策)
水谷 洋一 様

アオイネオン(株)さんの「C・O・S」(カーボン・オフセット・サイン)の取り組みが、平成24年に環境省が日本でのカーボン・オフセット制度を創設する2年前から始まっており、またその趣旨・内容にも合致したものと確実に進展していることは、以前にも指摘させていただきました。2016年もまさに「継続は力なり」の年であったのではないかと評価させていただきます。

ただ、1点、細かなことに見えて、実は大きな意味のある変化があったようです。それはオフセットに用いるクレジットが、2016年から国内のクレジットである《森林・林業日本一の町をめざす住田町の間伐プロジェクトにより発行されたJ-VER》に変わったことです。2015年までは、国際的なクレジットである《中国湖北省における小規模水力発電 CDM プロジェクトにより発行されたCER》が用いられていたのですが、京都議定書の第1約束期間後の調整期間の終了に伴いこれを使用できなくなったことと、一方で、環境省や経済産業省の主導により国内でのクレジット制度が整備されてきたことから(現在は、J-クレジット制度に発展)、使用クレジットの変更が行われたのだと思います。これにより、アオイネオン(株)さんがクレジットを購入するためにお支払いになる代金が、中国湖北省での小規模水力発電建設ではなく、東日本大震災の被災地でもある岩手県気仙郡住田町での森づくりや間伐事業を応援するために用いられることになりました。これはこれで、素晴らしい変化だと思います。今後とも、「C・O・S」を通じたアオイネオン(株)さんのカーボン・オフセット取り組みが継続・発展していくことを期待します。



カーボン・オフセット表彰の受賞

第5回 カーボン・オフセット大賞【奨励賞】受賞

(主催:カーボン・オフセット推進ネットワーク、後援:環境省 経済産業省 農林水産省)

低炭素社会の実現に向けて、優れたカーボン・オフセットの取組を行う団体を表彰し、奨励すると共に、具体的な取組事例の紹介を通じて、カーボン・オフセットの意義と取組への理解が社会全体に広く浸透することに貢献した取り組みとして「奨励賞」をいただきました。



東北地域カーボン・オフセットグランプリ【支援賞】受賞

【支援賞】は東北地域外の者が東北地域で創出されたクレジットを活用した場合の優れた取組を表彰するものです。アオイネオンが展開する『カーボン・オフセット・サイン』で、看板点灯時の消費電力に起因するCO₂をオフセット(埋め合わせ)するために岩手県住田町の森林保全により創出されたクレジットを活用している功績が認められました。



第9回 CO-Net 公開セミナー登壇

(主催:カーボン・オフセット推進ネットワーク)

横浜開港記念館にて『カーボン・オフセット・サイン』をご紹介しました。

セミナーの冒頭では、看板業界の社会課題として、違法や無届看板の現状や老朽化、落下事故事例などを紹介しました。また、環境対応では看板の省エネ化の手法を解説、省エネ改良後にどうしても消費しなければならない電力に起因するCO₂を森林保全事業などに貢献することで埋め合わせ理論上CO₂排出ゼロとする仕組みを紹介しました。



平成27年度 二酸化炭素排出抑制事業認定

(環境貢献型商品開発)

『C・O・S(カーボン・オフセットサイン)被災地復興支援型』が平成27年8月24日付け海環協第270824-07号で二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(環境貢献型商品開発・販売促進支援事業内環境貢献型商品開発・販売促進支援事業)の認定を受けました。

カーボン・オフセットサインで復興支援

『森林・林業日本一の町を目指す住田町の間伐プロジェクト』

(実施場所:岩手県住田町)

東北被災地により創出された排出権(J-VER)を活用することで、被災地の雇用拡大や経済発展に寄与します。

ご採用事例

株式会社市川園 様

New

リニューアル後のネオン等点灯時の排出CO₂をオフセット
(期間:2016年11月25日から3年間)

72t-CO₂をオフセット

株式会社大川印刷 様

New

看板リニューアル後の排出CO₂をオフセット
(期間:2016年11月21日から10,000時間まで)

4t-CO₂をオフセット

株式会社アイエス 様

サイン新設時にLEDを採用、看板点灯時のCO₂排出量を削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット
(期間:2015年6月11日から5年間)

26t-CO₂をオフセット

株式会社あさひ 様

店舗新設時にLEDを採用、看板点灯時のCO₂排出量を削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット
(期間:2015年9月1日から3年間)

53t-CO₂をオフセット

トヨタカローラ静岡株式会社 様

店舗新設時にLEDを採用、看板点灯時のCO₂排出量を削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット
(期間:2015年7月10日から10年間)

27t-CO₂をオフセット

株式会社河合楽器製作所 様

リニューアルでLED採用により消費電力を約87%削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット
(期間:2013年8月21日から5年間)

11.07t-CO₂をオフセット

株式会社資生堂 様

看板内部の反射効率を改善し、蛍光灯本数の削減により消費電力を約33%削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット(期間:2010年5月21日から)

1,220t-CO₂をオフセット

雪印メグミルク株式会社 様

リニューアルLED採用により消費電力を約91%削減、省エネ改良後の排出CO₂をオフセット
(期間:2011年4月15日から5年間)

22t-CO₂をオフセット

オフセット合計 **1,435.07 t-CO₂**



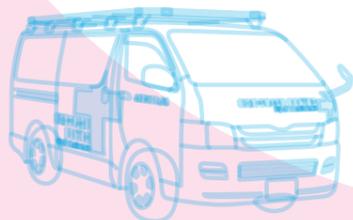
「安全・安心」そして「適正」な 屋外広告物で持続可能なまちづくりへ。



『看板ドクター®』 + 『看板マネジャー®』

都市の景観を形成するうえで重要な柱のひとつであり、私たちの身近な情報伝達手段である屋外広告物。屋外に設置されている看板は、長い間風雨に晒され、鉄部に錆が発生して腐蝕していきます。特に看板内部の腐食は、通常の目視調査だけでは発見できないケースが多く欠陥が判明したときにはすでに落下や倒壊事故など私たちに危害を及ぼすこともあります。

看板を長期的に良好な状態で維持する為には定期的にその現状を正確に把握する必要があります。看板診断システム『看板ドクター』は、訓練された検査員が様々な検査機器や特許取得の検査方法によりお客様の看板を検査いたします。私たちはお客様に安心して看板を掲出していただき、景観形成と持続可能な街づくりに貢献できるサービスをご提供します。



Interview

東京本社 企画設計部 部長
田村 秀広

これまで点検させていただいた看板の中には、通学路の頭上に設置されており、落下の危険性が高いと判断されるものがありました。
看板ドクターを通じて、ひとつでも事故の可能性を減らし、安全・安心な街づくりに貢献したいと思います。

看板点検の基準

- 1 安心・安全
- 2 法令順守
- 3 広告効果

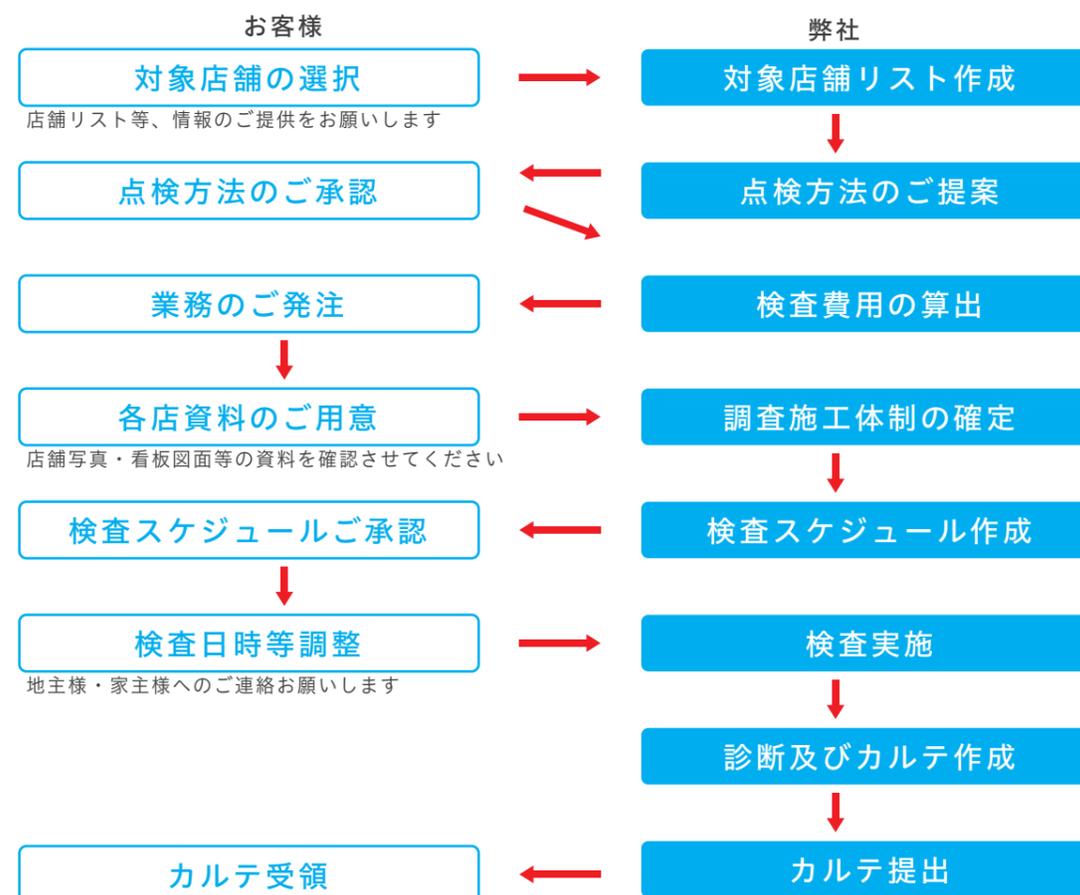
看板点検の方法

- 1 (遠視) 目視
- 2 標準点検・近視目視
- 3 詳細点検・内部確認

看板の点検業務内容

- 1 店舗に設置されているサインアイテムの状況把握
(サインアイテム毎の写真を撮影)
- 2 看板構造の劣化による不安全箇所の有無を確認
(専門の検査員が高所作業車で専用の機器を使用し検査)
- 3 「安全」と「美観」を保つ為に必要な処置のご提案
(弊社診断員による的確な診断と構造検討、是正処置及び維持に関するご提案)
- 4 現状のロケーション
(遠景・近景写真撮影、視認性の確認、周辺状況写真撮影)
- 5 法令に関するチェック

検査・診断の流れ



診断機器と独自の検査システムでお客様の負担を軽減



- 内視鏡カメラスコープ
- 赤外線サーモセンサー
- マイクロスコープ
- 超音波厚さ計 (超音波パルス反射方式)
- 引抜き耐力試験機
- 絶縁抵抗計 (メガ)

アンカードクター (アンカーボルト引抜き検査)

特許第3779722号 商標登録第503991号

既存アンカーボルトに特殊検査リングを装着し、締め付けることで発生するひずみを測定します。看板を取り外さずに引き抜き検査が可能です。



当社オリジナルの特許取得の検査システムで、より安全に短時間で検査し、お客様の負担を減らします。



検査結果評価基準

診断したサインアイテムを4段階に判定します。4段階の判定を分類すると、優良・要補修・危険になります。

- A 判定** 特に問題は見られません → **優良**
- B 判定** 落下等の危険性は低いが、定期的な保守により安全性・美観を維持することが望ましい → **要補修**
- C 判定** 放置すると落下等の恐れがあり、適切な対処により、危険を回避することが望ましい → **要補修**
- D 判定** 早急な処置が必要 → **危険**

【劣化状況と判定例】

	アンカー	看板下端	ポール根元	屋上看板
危険				
要補修				
優良				

※数値に関して、四捨五入しております。

9年間で3,560件8,100アイテムの実績

※2016年7月31日現在

看板ドクター[®]で点検・診断したアイテムの中でいつ事故を引き起こしてもおかしくない危険な看板もありました。私たちは看板ドクター[®]で点検・診断を行い、危険な看板を1つでも減らし安全に歩ける街づくりをサポートいたします。昨年度までの累計に比べ、危険と判断される看板が0.5%増えました。看板設置されているお客様の安全・安心へのご配慮から危険な看板を早期発見できました。これからも「安心・安全」な街のため、お客様をサポートいたします。



※()の数値は8年間累計値に対する増減比率

特集 樹木医診断×看板診断 街の「安全・安心」を考える

目的

今までの情報交換の中から、街路樹診断と看板の診断とは、社会インフラである看板と街路樹の安全性確保という点において共通点があることが分かってきました。そこで、それぞれの診断について情報交換を行い、作業現場を見学することで、現状の診断方法やデータ管理体制等についての共通点や課題を認識し、改善点を検討する機会を得て、双方の顧客満足度の向上に結び付けたいと考えました。

株式会社エコル
CSR担当者、樹木医：2名

株式会社日比谷アメニス
CSR担当者：4名

アオイネオン株式会社
CSR担当者、看板ドクター：6名

2016年11月9日(水) 株式会社エコル様の会議室 13時開始



樹木医診断と看板診断概要説明
街路樹診断の現状や役割、診断方法をレクチャーしていただきました。



樹木医診断 (デモンストレーション①)
『アーボソニック3D』多点式応力波速度測定器を使用し、実際に行う診断と同じ方法で丸太を使って実演していただきました。



樹木医診断 (デモンストレーション②)
実際の街路樹で、診断するポイントを解説していただきました。



看板診断 (デモンストレーション)
日比谷アメニス様の屋上で看板の診断をさせていただきました。



看板診断 (検査機器を使って概要説明)
内視鏡カメラスコープを実際に操作していただき、操作方法を体験していただきました。

成果

双方の診断事業の概要について解説し、理解を深めた上で実際に現場で診断作業を見学し、意見交換を行うことでこれまで見ていなかった問題点や可能性を見出すことができました。

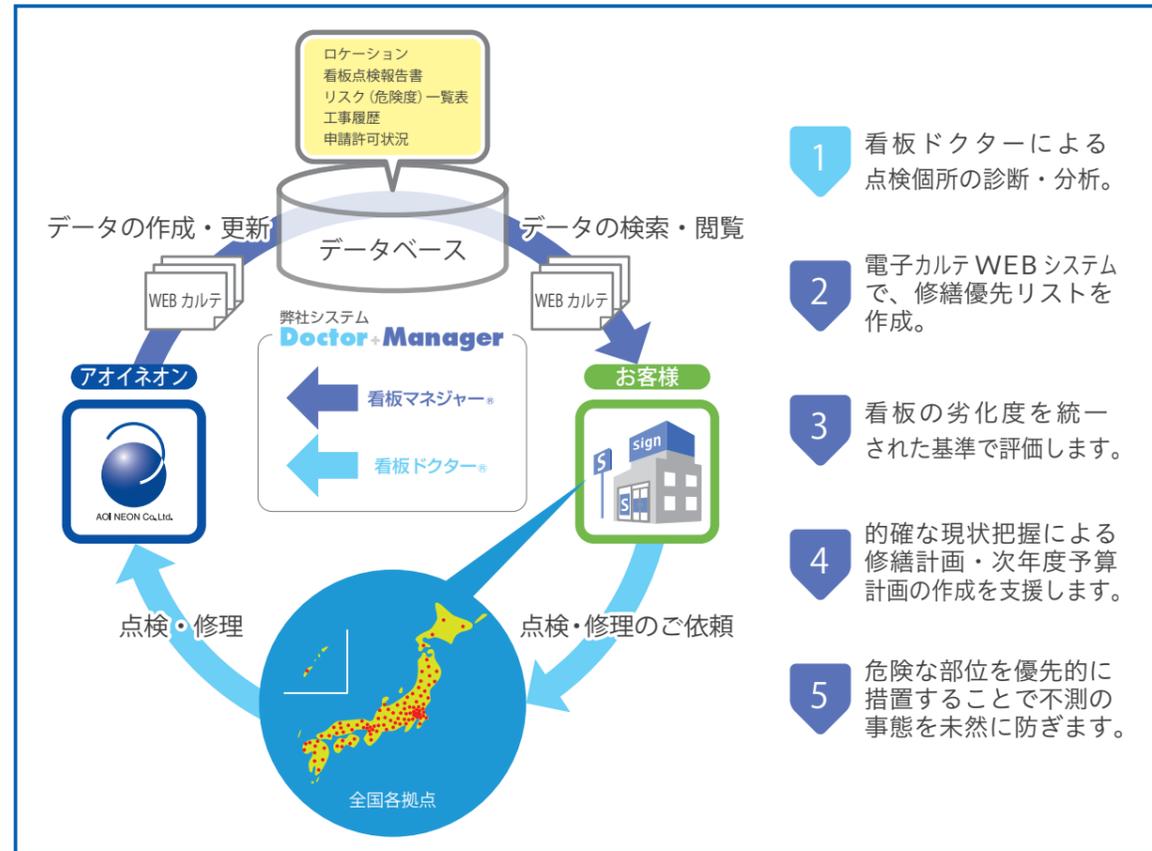
今後の課題

今回の異業種交流では、お互いの事業上の課題についても考える機会がありました。私たちの看板ドクターの可能性として街路樹診断のように行政の事業にも看板点検が組み込まれることが望ましいと感じました。今後もこうした活動を続けていくことで、視野を広げ、安全で安心なまちづくりに一層貢献していきたいと思っております。

※本事例は、日比谷アメニス様のCSRレポート『KININARU2016』P18P・P19にも掲載されています。

看板マネジャー®

看板の管理に特化したクラウド型の電子カルテ閲覧システムで、看板のリスク管理を支援する新しいサービスです。
看板の劣化状況や法令の許可更新等に関する情報基盤を確立し、スピーディーな情報共有を可能にするシステムです。



- 1 看板ドクターによる点検個所の診断・分析。
- 2 電子カルテWEBシステムで、修繕優先リストを作成。
- 3 看板の劣化度を統一された基準で評価します。
- 4 的確な現状把握による修繕計画・次年度予算計画の作成を支援します。
- 5 危険な部位を優先的に措置することで不測の事態を未然に防ぎます。

「より多くの情報」を「より分かりやすく」、「誰にでも」

<p>物件一覧 登録済みの物件を一覧表示。</p>	<p>リスク管理 アイテム別に危険度を一覧表示。</p>	<p>申請管理 更新期限や手数料などの申請状況を一覧表示。</p>
<p>工事履歴 物件に対する工事履歴を一覧表示。</p>	<p>ロケーション 物件ごとに、アイテム写真の拡大表示、詳細の参照、更新が可能。</p>	<p>絞り込み検索 絞り込み検索により、必要な情報を瞬時に閲覧可能。</p>

法令チェックを怠りません

適用される各種法令及び法令順守状況を確認し適正な状態で看板掲出を維持します。

<p>看板が道路上に突き出ていませんか？</p> <p>突出看板の場合、敷地内から突き出る場合は「道路占用許可申請」の届出が必要です。 (屋上看板の場合壁面より突き出ること自体がNG!) 他に、設置する高さの制限もあります。 (道路法第32条)より</p>	<p>看板の高さは大丈夫ですか？</p> <p>看板の高さが4mを超えた場合は「工作物確認申請」による構造の審査が必要です。 (建築基準法第88条)より</p>
<p>看板の色合い・大きさは大丈夫ですか？</p> <p>都道府県で定められた「屋外広告物条例」・「都市景観条例」によって届出が必要な場合があります。 地域によっては、色合い・大きさなどが制限されます。</p>	<p>防火地域の規制をご存知ですか？</p> <p>防火地域内にある看板、広告等で、建築物の屋上に設けるもの、又は高さ3mを超えるものは、主要部分を不燃材料で造るか、又は不燃材料で覆わなければなりません。 (建築基準法第66条)より</p> <p><small>*代表的な事例です。各自治体で定められた条例等により異なる場合があります。</small></p>

『不動産ソリューションフェア』出展

10月18日(火)、19日(水)東京ビッグサイトで開催された展示会『第18回不動産ソリューションフェア』に今年も出展いたしました。
弊社展示ブースでは“D+M 看板診断管理サポートシステム”の“看板ドクター®”と“看板マネジャー®”サービスをご案内させていただきました。
検査機器に触れたり、看板点検のご相談をされたりと、多くの皆様がブースにお立ち寄りくださいました。
誠にありがとうございました。

『不動産経営者倶楽部・管理部会 勉強会』登壇

東京 丸の内パシフィックセンチュリープレイスにて『不動産経営者倶楽部・管理部会』の勉強会が開催されました。事例報告会では『ビルオーナーに多大な責任! 屋外看板のリスクマネジメント』をテーマにパネルディスカッションが行なわれました。
『看板ドクター®』の事例から老朽化による屋外看板の危険性や定期的な点検、万が一事故が起きた場合の対処方法などを知っていただき、屋外看板の安全管理の重要性をお伝えする機会となりました。



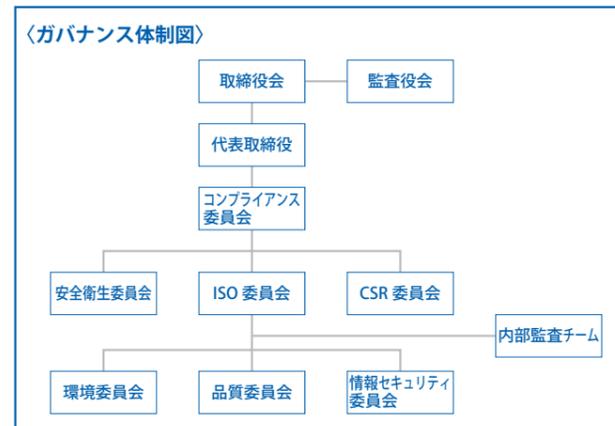
組織統治・公正な事業慣行

Organizational Governance · Fair Operating Practices

高い倫理観に基づいて行動することにより社会から信頼される企業であり続けます。

- ▶ アオイネオンの従業員全員が共通の価値・行動の基準で業務を遂行できるよう「倫理綱領（コンプライアンスマニュアル）」を制定しています。
- ▶ 全ての事業所において専任技術者を配置し、事業に必要な許可を取得しています。
- ▶ 『情報セキュリティ基本方針』のもと、情報資産保護・管理強化に取り組んでいます。
- ▶ 朝礼・月例報告会・方針発表会など定期的に事業の状態や方向性を従業員と共有する場を設けています。

社内体制



1. CSR 委員会： 社内へのCSR取り組み方針や施策などの浸透を図るとともに、CSRへの取り組みに関する企画立案、関係部署への提言、計画の進捗管理、CSR関連情報の収集と社内外への情報発信などを行う。
2. コンプライアンス委員会： コンプライアンス体制の構築、方針の維持・管理を行う。法令順守状況の定期的なモニターと法令順守施策の審議、諸問題に対する部門横断的な観点での検証、社員に対する教育、啓蒙活動を行う。
3. ISO 委員会： 環境・品質・情報の3部門からなり、ISOマネジメントシステムの方針及び目標の維持・管理を行う。

経営方針発表会

アオイネン経営方針と中長期の戦略への取組みについて全従業員が共通の認識を持てるように毎年、経営方針発表会を開催しています。



静岡本社

CSR委員会

CSRを推進する組織としてCSR委員会を設置しています。CSRの目標と計画について全社横断的に連携をとるため、東京・静岡・大阪・福岡の各事業所より選抜されたCSR委員が中心となり、計画の策定から進捗管理まで主体的に動ける体制を構築しています。

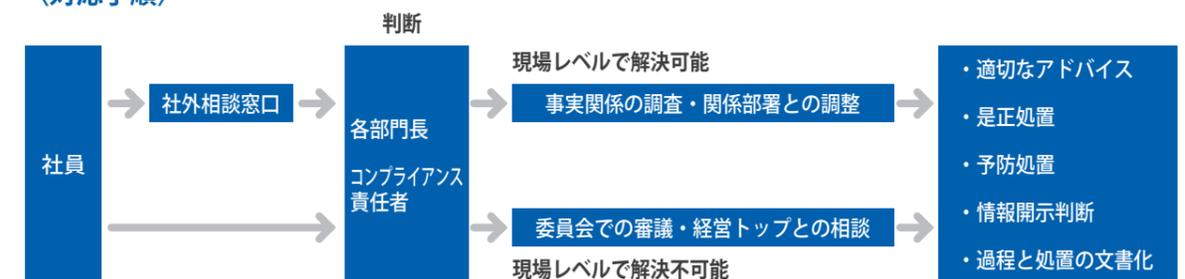


TV会議による4事業所でのCSR委員会

報告・相談への対応の流れ

コンプライアンス責任者、各部門長は、適宜、社員からの相談に応じ、適切なアドバイスを与える。また、倫理綱領や各種法令順守から逸脱する行為があるとの報告を受けた場合、以下により対応する。

〈対応手順〉



コンプライアンス方針に基づく企業活動の推進

コンプライアンス方針 (2004年12月制定)

1 法令・ルールを守り、地域社会に貢献しよう

私たちは顧客、取引先、株主等を含む幅広い社会との健全で良好な関係を維持するとともに法令や社会的規範社会的良識に基づいた企業活動を行い、地域社会発展の一翼を担います。

2 お客様に喜ばれる努力をしよう

私たちはお客様がサインに期待する情報伝達機能を確実に果たすと同時に、お客様が安心して掲出を続けられる安全性、耐久性の確保を実現します。

3 みんなで創ろう笑顔のある職場

私たちはすべての人々の人権を尊重します。また一人ひとりが互いに信頼できる健全な職場環境をつくります。

4 一人ひとりの心がけ健康づくり安全作業

私たちは社員一人ひとりが心身ともに健康で、安全に働くことができる、事故や災害のない職場づくりを目指します。

「企業倫理に関する方針」「行動規範」の制定

当社では2005年に「コンプライアンス方針」を制定し公正かつ適切な経営を実現し、企業市民として社会的責任を果たすことに取り組んできました。また、コンプライアンスの徹底には、一人ひとりが、自らの行動をコンプライアンスの観点から確認して、業務に取り組む必要があります。CSR委員会を中心に議論を重ね、行動規範を定めた「倫理綱領」を作成し全従業員に配布するとともに教育を実施し、CSR経営の重要性と、その土台となるコンプライアンス意識の浸透を図りました。



倫理綱領(コンプライアンスマニュアル) 第二版



ライセンスレポートによるご説明

お客さまに安心してご発注して頂くために、工事に必要な許認可や資格について事前にご説明しております。
また、「ライセンスレポート」により弊社の許認可取得状況、専任技術者、有資格者等の有無についてもご確認いただけます。



ライセンスレポート「建設業許可」編、「屋外広告業」編

建設業許可と専任技術者

個人・法人などの形態や、商社・代理業などの業種を問わず、500万円以上の建設工事を請負う場合は、本社・支店・営業所など全ての拠点で建設業許可が必要です。建設業許可には、28種の業種があり、工事を行なう場合、その物件の主要な部分に該当する建設業許可が必要となり、該当する種類以外の建設業許可では、業務を行なえません。
アオイネオンでは、本社支店全ての事業所で、以下の建設業許可を取得しており専任技術者を常駐させています。

建設業許可一覧

建設業の種類	広告業として請負いする工事内容	建設業の許可番号
鋼構造物工事業	鋼材を加工又は組立し工作物(広告物本体)を築造する工事	特-24 第19713号
内装仕上工事業	館内サインを設置する工事	
建築工事業	建築工事業全般	般-24 第19713号
とび・土工工事業	工作物(広告物)の基礎工事 足場の組立工事 工作物の解体工事 重量物の運搬設置	
	塗装工事業	
電気工事業	電材を設置又は取替える工事 (ネオン管、LED照明、投光器など)	般-24 第19713号
板金工事業	広告塔等の表示板面の取替え工事 チャンネル文字の設置や取替え工事	般-24 第19713号

技術者 (静岡・東京・大阪)

一級建築士	1名
二級建築士	4名
一級建築施工管理技士	7名
二級建築施工管理技士	10名
二級電気工事施工管理技士	4名

2016年12月 現在

屋外広告業の登録

●全国113ヶ所全ての都道府県、政令市、中核市で屋外広告業の登録済

屋外広告を施工する者は、工事を行う場合の自治体への登録がなければ、施工ができません。元請、下請に関わらず全ての業者に登録が義務付けられており、建築工事などの一部として屋外広告を設置する業務を請け負った場合でも登録が必要です。弊社では、すべての地域において各事業所ごとに業務主任者を専任し登録が完了しております。

●各事業所に在籍する屋外広告士 (静岡・東京・大阪) 21名

※その他、各事業所に屋外広告物講習会修了者(9名)が在籍しております。

2016年12月 現在

第三者によるCSR監査

当社のCSR活動を第三者から評価していただく「CSR監査」を年1回実施しています。昨年に引き続き、さいたま市と静岡市で行政のCSR認定制度設計をされている泉貴嗣様による監査を実施しました。
財務、労務、コンプライアンスなどの『守るCSR』40項目、中期経営計画、社会貢献活動、外部組織との連携などの『伸ばすCSR』20項目をチェックいただきました。

※監査項目と結果はP41～44を参照ください



情報セキュリティ基本方針 (2010年9月制定)

① 目的

当社は情報を的確に伝えるサイン、お客様の心が伝わるサインを造り続けること、それを経営理念として「心、情報、光にカタチに」のキャッチフレーズに込めています。当社は屋内外における情報伝達メディアであるサインの製作にあたり、取り扱う情報資産の適切な保護対策を実施する事により、お客様の信頼確保及び事業損失を最小限に留めることを目的として、この「情報セキュリティ基本方針」を定めます。
私たちは、ISO27001に準拠した「情報セキュリティマネジメントシステム」を構築し、お客様からお預かりした情報はじめ、当社が取り扱う情報を重要な資産として保護・管理する事でセキュリティに関するインシデント(事件・事故)の防止を図ります。

② 情報セキュリティの定義

情報セキュリティとは、機密性、完全性及び可用性を確保し維持することをいう。

- (1) 機密性：情報を漏えいや不正アクセスから保護すること。
- (2) 完全性：情報の改ざんや間違いから保護すること。
- (3) 可用性：情報の紛失・破損やシステムの停止などから保護すること。

③ 適用範囲

【組織】：アオイネオン株式会社

【業務】：サインボード並びにそれに付随する銘板の設計、建設、据付、メンテナンス及びサインボードの検査、診断業務

【資産】：上記業務、サービスに関わる書類、データ、情報システム

④ 実施事項

- (1) 適用範囲の全ての情報資産を脅威(漏えい、不正アクセス、改ざん、紛失・破損)から保護するための情報セキュリティマネジメントシステムを確立、導入、運用、監視、見直し、維持及び改善するものとする。
- (2) 情報資産の取り扱い、関係法令及び契約上の要求事項を順守するものとする。
- (3) 重大な障がいまたは災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをするものとする。
- (4) 情報セキュリティの教育・訓練を適用範囲すべての従業員に対して定期的実施するものとする。

⑤ 責任と義務及び罰則

- (1) 情報セキュリティの責任は、代表取締役が負う。そのために代表取締役は、適用範囲の従業員が必要とする資源を提供するものとする。
- (2) 適用範囲の従業員はお客様情報を守る義務があるものとする。
- (3) 適用範囲の従業員は、本方針を維持するため策定された手順に従わなければならないものとする。
- (4) 適用範囲の従業員は、情報セキュリティに対する事故及び弱点を報告する責任を有するものとする。
- (5) 適用範囲の従業員が、お客様情報に限らず当社が取り扱う情報資産の保護を危うくする行為を行った場合は、社員就業規則に従い処分を行うものとする。

⑥ 定期的見直し

情報セキュリティマネジメントシステムの見直しは、環境変化に合わせて定期的に実施するものとする。

環境

Environment

地域環境の保全是21世紀を生きる企業の使命です。

- ▶ ISO14001 に従って外部審査員による環境監査と、社内監査員による定期監査を実施し、環境マネジメントシステムの適正な運用に努めています。
- ▶ 事業所ごとに環境計画を策定し、従業員の意識向上と環境活動の改善を図っています。
- ▶ ESG 問題など、環境と社会・企業との関係を認識して行動出来るように従業員への教育・啓発を定期的に行っています。

環境マネジメントシステムへの取り組み

当社が環境保全に関わる活動を推進するに当たり、環境に関連する方針や目標を設定し、これらの達成に向けて取り組んでいます。
ISO14001規格に従い環境マネジメントシステムを運用し、定期的に外部審査、内部監査を実施しています。外部審査では毎年の定期審査、3年毎の更新審査でシステムの適合性と有効性の審査を受けています。



社内教育の実施



環境のみならず、ESG問題といった環境、社会、企業との関係をCSRとして理解することで、従業員が自ら果たすべき役割を認識して行動できるように教育・啓発を行っています。

TV 会議を採用 CO₂ 排出削減



出張経費の削減にとどまらず、人の移動に関わるCO₂排出量の削減や、会議資料電子化による紙資源の利用低減を目的とし、テレビ会議を採用しています。

しずおか未来の森サポーター

静岡県の豊かな森づくりをサポートする団体として『しずおか未来の森サポーター』に認定されています。
『ふじのくに森の町内会』の紙を使うことにより、林地に捨てられる間伐材を資源として活用するのに協力しています。

『間伐に寄与する紙』使用量
2016年までの累計：
1,151.5 kg
※2016年11月現在



アオイネオンの環境方針

アオイネオンは2001年に「環境問題改善プロジェクト」をスタートさせ、「アオイネオン環境方針」のもと環境保全活動に着手しました。また2009年には国際環境規格ISO14001を全事業所・工場で認証取得するなど、事業活動に伴い発生する様々な環境負荷の低減に向けた取り組みを進めてきました。今後も「全ての事業決定において環境に配慮する」という新たな方針のもとさらに積極的な取り組みを進めていきます。

アオイネオンの環境方針 (2001年6月制定 2005年8月改訂)

当社は屋内外における情報伝達メディアであるサインの製作にあたり、すべての事業決定において地球環境への配慮を実現し、社会的責任を果たすことを目指します。そのために環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防と環境パフォーマンスの向上に努めます。また、環境関連法令、その他の要求事項を順守し、地域社会との協調に努めます。この方針は組織のために働くすべての人に周知し、広く一般に開示します。



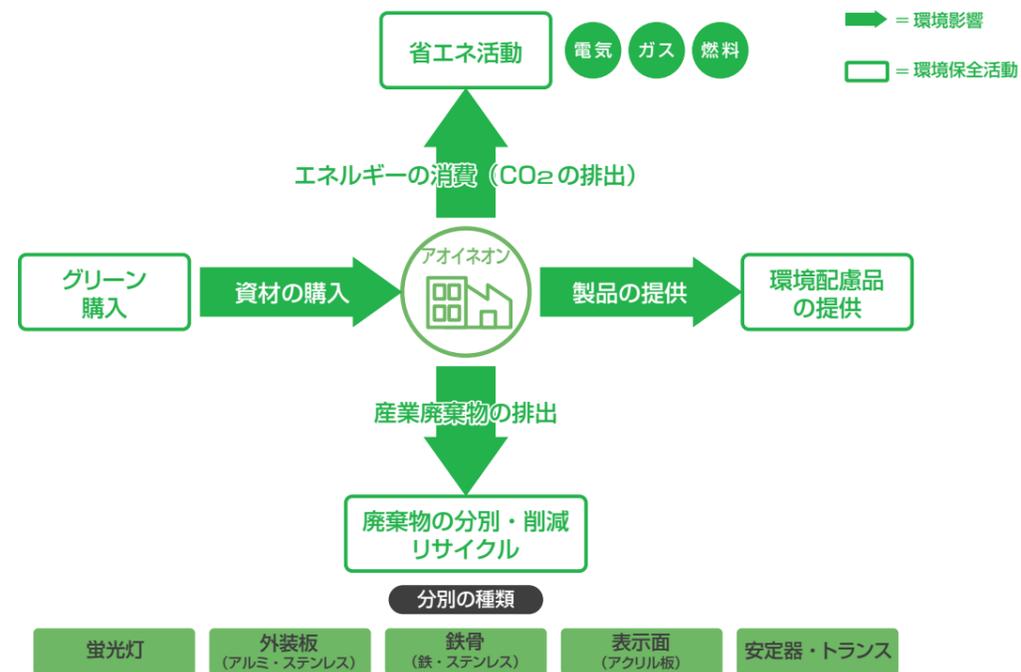
特に下記項目を環境目的として取り組んでまいります。

1. 資源・エネルギーの節減
2. グリーン購入の推進
3. 産業廃棄物の削減

東京・静岡・大阪（事業所・工場）でISO14001の認証を取得しています。

主な環境影響と保全活動

製品を製造しお客様に提供するまでに、資源やエネルギーの消費、産業廃棄物の発生やCO₂の大気への排出など環境に負荷を与えています。私たちは事業活動にともなう環境への負荷を正しく認識し、持続可能な地球環境のために省エネ・省資源、廃棄物削減などの環境保全活動を推進していきます。



※グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること



2015年度 環境目標に対する実績

日々の活動から可能な限り環境への負荷を低減させるため、環境目標を明確化するとともに、目標に定量性を持たせています。未達成の項目に対しては改善目標を設定し具体的な対策を講じます。目標達成した項目も合わせ継続的な環境負荷の低減に取り組んでいます。

【静岡本社】

期間：2015年8月～2016年7月（1年間）

項目	基準年	目標値	実績値	評価
産業廃棄物削減 ① 産業廃棄物の削減 (産廃処分量/工事売上 100万円)	2014	0.176 m ³	0.153 m ³	◎
資源・エネルギー 使用量の削減 ① CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン・軽油・ガス・水道使用量)	2014	91.4 t-CO ₂	96.4 t-CO ₂	×
グリーン購入の推進	① 照明に LED を使用した製品を提供する (LED 照明使用物件/照明有りの物件)※ネオン除く	2014	90%	×
	② C・O・S [®] (カーボン・オフセット・サイン)の提案 (提案件数/照明有りの物件)	2014	60%	◎
法規制の順守 ① 環境法規制及びその他の要求事項の順守	—	—	—	◎

【東京本社】

期間：2015年8月～2016年7月（1年間）

項目	基準年	目標値	実績値	評価
産業廃棄物削減 ① 産業廃棄物の削減 (産廃処分量/工事売上 100万円)	2014	0.083 m ³	0.073 m ³	◎
資源・エネルギー 使用量の削減 ① CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン・軽油・ガス・水道使用量)	2014	38.2 t-CO ₂	33.6 t-CO ₂	◎
グリーン購入の推進	① 照明に LED を使用した製品を提供する (LED 照明使用物件数/照明有りの物件数)※ネオン除く	2014	62%	◎
	② C・O・S [®] (カーボン・オフセット・サイン)の提案 (提案件数/照明有りの物件)	2014	100%	◎
法規制の順守 ① 環境法規制及びその他の要求事項の順守	—	—	—	◎

【大阪支店】

期間：2015年8月～2016年7月（1年間）

項目	基準年	目標値	実績値	評価
産業廃棄物削減 ① 産業廃棄物の削減 (産廃処分量/工事売上 100万円)	2014	0.066 m ³	0.597 m ³	×
資源・エネルギー 使用量の削減 ① CO ₂ 排出量の削減 (電気・ガソリン)	2014	12.4 t-CO ₂	12.3 t-CO ₂	◎
グリーン購入の推進	① 照明に LED を使用した製品を提供する (LED 照明使用物件数/照明有りの物件数)※ネオン除く	2014	93%	◎
	② C・O・S [®] (カーボン・オフセット・サイン)の提案 (提案件数/照明有りの物件)	2014	100%	該当なし
法規制の順守 ① 環境法規制及びその他の要求事項の順守	—	—	—	◎

環境会計

アオイネオンでは環境会計を、環境経営の定量的指標のものさしとして捉え、環境保全活動に関わる投資額や費用額、また環境保全効果や経済効果を把握して評価することにより、効果的な取り組みを図っています。

【環境保全コスト】

2015年度の環境保全コストは投資、費用あわせて4,068,740円を投入しました。(円)

分類 (注1)	投資額 (注2)	費用 (注3)	事例
地球環境保全、公害防止コスト	0	608,074	浄化槽点検清掃、作業環境測定値他
資源循環コスト	0	1,846,566	廃棄物処理委託、省資源
管理活動コスト	0	1,544,100	環境教育、廃棄物管理、保管庫、書籍他
社会活動コスト	0	70,000	地域貢献
環境損傷対応コスト	0	0	なし
合計	0	4,068,740	

(注1) 環境省「環境会計ガイドライン」における環境保全コストの分類
(注2) 投資額とは環境保全を目的とした設備投資
(注3) 費用には環境保全活動に費やした維持運営管理費等が含まれます。

対象期間：2015年8月1日～2016年7月31日
対象サイト：静岡本社、東京本社、大阪支店、福岡営業所
参考書：環境省環境会計ガイドライン他

【環境保全効果】

効果については事業実績に対する削減量を基準として前年度より環境負荷がどれだけ改善されたかを捉えています。産業廃棄物に関しては14.4 m³の増加、電気使用量に関しては10,210kwhの削減、燃料消費量に関しては5,053リットルの増加となり、経済効果としては-627,320円となりました。

内容	削減効果				経済効果	
	※1 2014年度	※2 2015年度	削減量	単位	内容	金額(円)
産業廃棄物の削減	137.6	152.0	▲14.4	m ³	分別による削減	▲144,000
事業所内使用電気量の削減	160,442	150,232	10,210	kwh	節電による削減	173,570
燃費消費量の削減	28,208	33,261	▲5,053	ℓ	エコドライブによる削減	▲656,890

※1 2015年度事業実績に換算した値 ※2 2015年度実績



人権・労働慣行

Human Rights · Labor Practice

安全で快適な職場環境づくり

- ▶ 定期的実施状況を評価し、フォロー・改善を実施する事で安全衛生水準の向上を図っています。
- ▶ 災害時に可能な限り円滑な活動が行えるよう、総合的な防災対策を実施しています。
- ▶ 社員一人ひとりの人格や個性を尊重しつつ、豊かさと達成感が実感できるような人事制度や労働条件の維持向上に努めています。

安全衛生委員会 2015年度目標と結果

当社における労働災害は、長年にわたる安全活動のなかで低減してきています。継続的な改善を目指すため、安全衛生目標を設定し、当該目標において一定期間に達成すべき到達点を明らかにし目標達成の度合いを客観的に評価できるようにしています。残念ながら達成出来なかった目標については、原因を究明し次年度の改善に結びつけます。

【交通事故】

2015年度目標 ・重大な事故発生件数：0件
・軽微な事故発生件数：2件以下

施策

- ・過去3年間に事故を起こした社員を対象に教育を実施する。
- ・事故発生後、委員会で原因を究明、対策を検討、実施する。

2015年度結果 ・重大な事故発生件数：0件
・軽微な事故発生件数：4件

【物損・労働災害】

2015年度目標 ・重大な事故発生件数：0件
・軽微な事故発生件数：4件以下

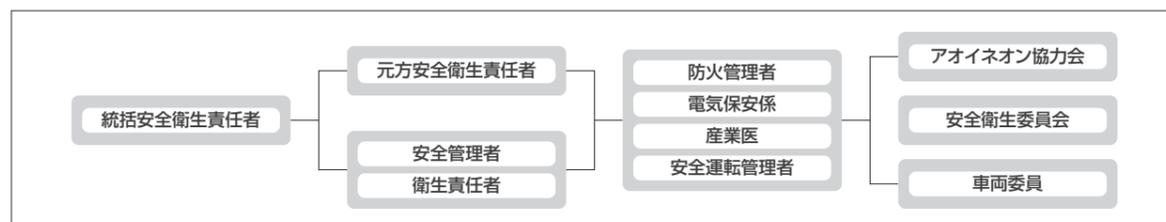
施策

- ・過去3年間に事故を起こした社員を対象に教育を実施する。
- ・事故発生後、委員会で原因を究明、対策を検討、実施する。

2015年度結果 ・重大な事故発生件数：0件
・軽微な事故発生件数：4件

期間：2015年8月1日～2016年7月31日／対象：全拠点

安全衛生委員会の主な活動と組織体制



安全衛生委員会	毎月1回	産業医工場巡視	毎月1回
安全パトロール	毎月1回	作業環境測定	年2回
KY（危険予知）ミーティング	現場作業開始前		

アオインオン安全大会

協力会社の皆様と弊社従業員が一体となり、より安全な職場の実現に取り組んでいます。災害防止活動の推進を図り、個々の安全意識を高めるためのコミュニケーションの場として「アオインオン安全大会」を毎年開催しています。これまで以上に安全意識の向上と、安心安全の提供に全力で取り組んでいくことを再確認しました。



経営層による現場の安全パトロール



安全パトロールは、労働災害防止活動における予測・予防の手段として、重要な役割を担っています。経営層による作業現場の安全確認により、事故や災害につながる要因を早期に発見し、これを除去、改善、是正し、作業所の安全の確保と快適な職場環境の形成を実現します。

緊急事態への対応

火災や大規模地震などの緊急事態が発生した場合に備え、防災体制を定め運用しています。定期的な防災訓練及び防災設備の点検を実施し、緊急事態発生時に人的安全の確保及び円滑な防災活動を行えるように体制を整えています。



9月4日 静岡本社



9月28日 東京本社

作業環境測定

労働安全衛生法により、有害な業務を行う屋内作業（粉じん・騒音・有機溶剤などの作業）について、作業環境測定を行う義務が課せられています。



塗装室空気汚染測定

安全優良者表彰

現場の安全、無事故・無災害実現のため、特に顕著な活動をされた協力会社様を表彰させていただきました。協力会社様と全従業員が力を合わせ、職場・現場作業の安全意識の向上に取り組む決意を新たにします。



平成28年度表彰
光伸工業 渡邊 和伸様



Interview

光伸工業
渡邊 和伸様

この度は素晴らしい賞を頂きありがとうございます。このような賞を頂いたのも、工事担当者、営業担当者、協力会社の皆様のおかげだと思っております。建設業界、厳しい状況が続いています。限られた予算の中、品質、安全をさらに追求し、取り組んでまいりたいと思います。まだまだ未熟な点が多々あると思いますが、これからもご指導の程宜しくお願い致します。



「資格取得支援制度」で社員のプロフェッショナル化を支援

アオイネオンは、社員一人ひとりがお客様により付加価値の高いサービスを提供できる“プロフェッショナル”となることを目指しています。その実現に向けた社員各人の自主的取り組みを支援する為、対象資格取得に成功した社員に受験費用の援助や報奨金を支給する「資格取得支援制度」を導入しています。現在、資格取得が業務に役立つと認定された48種類の資格取得を奨励しており、その取得難易度や業務への貢献度により支給額を設定しています。この制度が一層の自己研磨に励む刺激となり、多くの社員が資格取得に挑戦しています。

【主な資格】

一級建築士	一級電気工事施工管理技士	あと施工アンカー第一種施工士
二級建築士	二級電気工事施工管理技士	あと施工アンカー主任技士
一級建築施工管理技士	第一種電気工事士	屋外広告士
二級建築施工管理技士	第二種電気工事士	ネオン工事士

人材育成の考え方

多様な個性を持つアオイネオンの社員一人ひとりが、共通の価値観を持ち、事業そして社会に貢献できる人材に成長するため、様々な能力開発の機会提供に努めるとともに、公平・公正に評価される制度づくりに取り組みます。

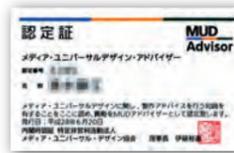
人材教育の仕組みである「資格・教育プロジェクト」は、ビジネスパーソンとしてのベース・共通能力の育成、幅広い専門能力の育成、自己啓発支援等のプログラムで構成されています。

知識教育	技能教育	資格教育
<ul style="list-style-type: none"> ● 関係法令 ● 社内規定 ● ISO 品質・環境・情報 ● CSR・コンプライアンス ● 製品知識・構造知識 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施工管理 ● 販促 ● ビジネスマナー 	<ul style="list-style-type: none"> ● 施工管理技士 ● 電気工事士 ● 屋外広告士 ● 建築士

MUD（メディア・ユニバーサルデザイン）教育検定

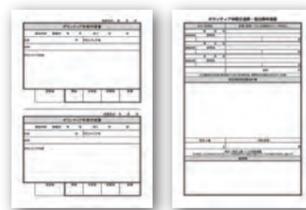
MUD教育検定は、老眼や白内障の中・高齢者や色覚障がいの方々などにもわかりやすい印刷物、Web、サインなどを、制作・発注できる知識・技術を習得することを目的としています。

今年は弊社のデザイン部門や営業部門から6名が検定に合格いたしました。



ボランティア休暇制度

「ボランティア休暇」とは企業が従業員のボランティア活動への参加を支援・奨励する目的で有給の休暇を認める制度で、ボランティア活動への従事者に対し通常の有給休暇とは別に付与されます。中小企業における『ボランティア休暇制度』の導入は全国で5%以下にとどまっていますが、企業側としても、社外での様々なボランティア活動を通じて実務能力の向上や積極性の育成が期待できる他、社内外のネットワーク構築、社会経験を積むことによる視野の広がりなど、人材育成面での効果を期待しています。



基本的人権の尊重に対する取り組み

【人権の尊重に関する方針】

アオイネオンは社員一人ひとりの人格や個性を尊重しつつ、豊かさや達成感が実感できるような人事制度や労働条件の維持向上を目指しています。「アオイネオン倫理綱領（コンプライアンスマニュアル）」では、法令順守はもとより、基本的人権を尊重し、あらゆる差別的取り扱いを受けない健全な職場環境を確保すること、問題発生時には迅速に調査し、被害者の救済と再発防止に向けた断固とした処置をとることを行動規範として明示しています。

【個人情報の保護】

個人情報については、利用目的ごとに同意を得て取得・利用し、総務部門を中心に厳重に管理しています。コンピューターウイルスや不正アクセス等による情報の漏洩を未然に防ぐため、個人情報を扱う上で人権の尊重、安全への配慮に基づいた情報モラルの向上を図っています。

【ハラスメントの防止】

アオイネオンでは「アオイネオン倫理綱領（コンプライアンスマニュアル）」で、役員・従業員の行動規範として、個人の多様な価値観・個性・プライバシーを尊重し、人種・宗教・性別・心身障がい・年齢などに関する差別的言動や、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントを認めないことを定めています。

【人権を尊重する為の教育】

CSR委員会が中心となって「アオイネオン倫理綱領（コンプライアンスマニュアル）」を全社員に周知徹底しています。入社教育のみならず、年間教育プログラムにも自覚教育として組み込み、従業員への人権尊重意識の浸透を図っています。

ワーク・ライフ・バランスの推進

【働き方の見直し】

従業員一人ひとりが「より少ない時間で高い成果を生み出せる」環境を整えることは、企業にとって重要な取り組みです。業務改善や自己研鑽により創出した時間を更にインプットの時間として有効活用する、といった好循環を生み出し、仕事の生産性や質の向上につなげていくことが必要です。週1日『ノー残業デー』を設定し時間外労働の削減に努めています。

【社内ハラスメント防止セミナー】

静岡本社にて『職場におけるハラスメントの防止』をテーマとしたセミナーを開催しました。グループワークでのケーススタディでは、様々な意見が飛び交い、働きやすい職場づくりの視点にたった慣行の見直しが行われました。



講師：静岡県人権啓発センター
杉原 久雄 様

社内コミュニケーションセミナー



『CSRを加速させるための現場のコミュニケーション力を鍛える』セミナーを開催しました。自我関与度と情報の伝わりやすさを体感する実験や解釈の多様性によるミスの発生、「決まる会議」の進め方など業務の様々な場面でのコミュニケーションを改善する手法を学びました。

（講師：允治社 泉 貴嗣様）

お客様への対応（消費者課題）

Consumer Issues

- ▶ 東京・静岡・大阪の事業所・工場でISO9001の認証を取得しています。
- ▶ 内部監査と外部監査を定期的実施し品質保証体制の維持・改善を継続的に進めています。
- ▶ 「資格・教育プロジェクト」により、しっかりとした知識や技能を備えた人材育成注力しています。
- ▶ 社員のスキルを向上させ、自ら考え行動する力を養う目的で社内セミナーを開催しています。

品質管理に関する監査



内部監査（大阪支店）



内部監査（東京本社）

弊社では「お客様が満足する品質」を実現し続けるために、定期的に社内の監査チームによる内部監査及び社外の審査機関による外部監査を実施しています。監査の対象は、企画設計部門や製造部門に加え営業部門などが該当し、全事業所と工場を含んでいます。監査で発見された不適合は、品質管理責任者から経営層に報告され、業務の改善につなげています。

社内セミナー



営業セミナー



デジタルサイネージ営業セミナー

社員のスキルを向上させ、自ら考え行動する力を養う目的で社内セミナーを開催しています。目標についての考え方、動き方、数字に対する考え方、営業時の行動方法などを重点的に学べるよう管理職も含めた研修を実施しました。

（講師：允治社 泉 貴嗣様）

（講師：（株）エリアマーケティング研究所 代表取締役 松下和弘様）

『資格・教育プロジェクト』による人材育成

アオイネオンの『資格・教育プロジェクト』では専門能力が求められる業務における資格の取得を支援しています。

今年は2級建築施工管理技士の試験に企画設計部、製造部より2名が合格し、表彰式を行ないました。



アオイネオンの品質方針

お客様に安全な製品を提供していくためには、製品の品質を管理するための仕組みの整備が不可欠です。当社では創業以来、独自の品質管理の仕組みを構築してきました。その仕組みをさらに強化するために2001年に品質方針を制定し、2009年には全事業所で品質管理システムの国際規格であるISO9001の認証を取得しました。また、外部審査機関による監査や社内の専門の担当者が各事業所の品質管理状態を確認する品質監査を毎年実施しています。この品質監査の機会を通じて、各事業所における品質改善事例の水平展開をおこない、全社を通じた品質の向上につながっています。

アオイネオン品質方針（2001年8月制定 2007年8月改訂）

「アオイネオン株式会社の経営理念」
心、情報、光にカタチに

基本方針

1. お客様がサインに期待する情報伝達機能を確実に果たします。
2. お客様が安心して掲出を続けられる安全性、耐久性を確保します。

私たちは「製品の品質」に加え「顧客満足」を重要視した「組織の質」の向上を実現するために、絶えず改善を続けます。

品質目標

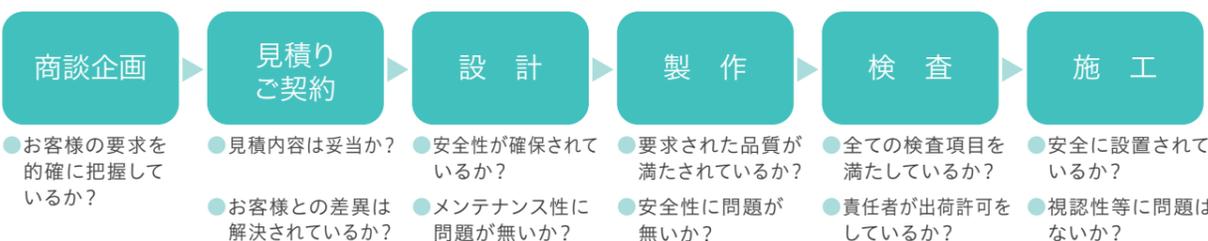
1. お客様満足度の向上
2. 高品質の製品づくり
3. 安全性と耐久性の確保
4. シェアの拡大



東京・静岡・大阪（事業所・工場）でISO9001の認証を取得しています。

すべてのプロセスでの品質保証を徹底

アオイネオンの工場で製造される製品には、お客様ごと、物件ごとの製品仕様があり、ご要望ごとに1点1点異なる品質をつくり上げていくことが必要となります。アオイネオンでは営業・企画・設計から資材調達、製造、施工に至るすべてのプロセスで、全社員が常に「高品質の製品づくり」に取り組んでいます。



コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展

Community Involvement

『地域社会とのきずな』を大切により良い社会・地域づくりに貢献します。

- ▶ 本年も違反広告物の共同除去活動、「小さな親切運動」のクリーン作戦に参加しました。
- ▶ エコキャップ運動では、従業員・協力会社の皆様が積極的に協力して毎年多くのキャップを回収し、世界の子供たちにワクチンを届けています。
- ▶ 使用済み切手を従業員が持ちより、発展途上国の医療支援に役立てています。
- ▶ 「屋外広告物適正化旬間」に合わせ、違反広告物を除去する活動に参加しています。

グリーンバードプロジェクト



「きれいな街は、人の心もきれいにする」をコンセプトに活動する green bird プロジェクトのゴミ拾い&防犯ボランティアに福岡営業所から3名が初参加させていただきました。



共同違反広告除去活動

『屋外広告物適正化旬間』に合わせ、東京・静岡・大阪の各拠点より、違反広告物を除去する活動に参加しています。住宅街や商店街を巡回し、道路沿いに設置された地図に貼られたシール、電柱に貼られたチラシなどを取り除く作業を実施しました。市民、行政、看板業者などが参加し大きなイベントになりました。



8月24日 かたづけ隊 (大阪)



9月9日 違法広告物除去活動 (静岡)



10月3日 違反屋外広告物共同除去活動 (東京)

大正湯 足場材丸太のリサイクル

経年劣化した足場用の丸太材を大田区東蒲田の銭湯、「大正湯」さんにお湯を沸かす薪燃料として提供しました。大正湯さんは今では数少ない薪銭湯ですが薪で沸かしたお湯は肌に柔らかいと評判がよく昭和9年創業当時のこだわりだそうです。地域で生活の一部となっている歴史ある銭湯のお役に立てれば幸いです。



『小さな親切運動』

『小さな親切運動』で静岡市中心街のクリーン作戦を行いました。本年度は2月27日に行われ、弊社から10名が参加させていただきました。2005年から参加させていただいて本年度で12回目になりました。地域の方々が少しでも快適に過ごせるための街づくりに毎年参加させていただき大変光栄です。これからも静岡市が美しい街として継続していけるようにがんばります。



『使用済み切手の収集活動』

心の国際交流事業『使用済み切手』の収集に本年度も参加しました。従業員が持ち寄った、使用済み切手を寄付させていただきました。収集された切手は、小さな親切運動県本部から(財)ジョイセフを通じて換金され、発展途上国の生活改善や医療支援のために活用されます。



『エコキャップ運動』

ペットボトルのキャップを分別回収し再資源化することにより、CO2の発生抑制に寄与できると同時に、キャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届けます。本年度も社内だけでなく多くの協力業者の皆様にも積極的にご協力いただきました。ありがとうございます。



寄与したエコキャップ



キャップ実績レポート

ワクチン：34人分
68.08kg

エコキャップ回収団体：NPO 法人 キャップの貯金箱推進ネットワーク



Interview

東京本社 企画設計部
CSR 委員
荒川 郁弥

社内のワーキング・グループが中心となり新たに『ボランティア休暇制度』がスタートしました。制度の内容もアオイネオンらしさを盛り込んだものになっていますので、地域貢献活動やボランティアなど様々なコミュニティへの参画に活用していただけるよう呼びかけていきたいと思います。

2016年 CSR 行動計画

守る CSR【40項目】リスクを軽減し、企業を守る

No	ISO26000	指標	目標	2016年結果	2017年以降の目標
1		経営理念などの自社の中核的価値観、規範を定めて従業員に明示する	経営理念の策定、掲出、配布、唱和	★★★	学習、コミュニケーションによる経営理念の浸透
2		経営者が定期的に事業の状況や方向性などを従業員に伝える	朝礼、月例会などによる業績説明	★★★	朝礼、月例会などによる業績説明の継続
3		株主総会や取締役会など、法令で定める組織の意思決定機関を適法に開催し、議事を記録する	3か月に1回以上の取締役会の開催、適法な招集通知に基づく株主総会の開催、議事録の作成	★☆☆	3ヶ月に1回以上の取締役会の開催と議事録の作成
4		組織的に法令違反を予防、発見するための具体的な措置をとる	内部通報制度の構築、与信管理における反社会的勢力関連のチェック、実質的な監査役監査、内部監査の実施、弁護士の利用	★★☆	社内外に設置した相談窓口の積極的な活用を促す
5		子会社に対して、法令順守および内部統制に関する具体的な監督を行う	該当なし	該当なし	該当なし
6		公務員との適法な関係を保持するための具体的な措置をとっている	公職者との交際方針の策定、方針に基づく役員、従業員への監督、交際費支出のチェック強化、政治献金などの支出記録の保存	★★★	役員、従業員に対して倫理綱領に基づく教育を継続
7		取締役などの全ての役員は管掌する具体的な業務を有する	役員管掌業務の明示、取締役規程などの策定、組織図の作成	★☆☆	役員管掌業務の明示、取締役規程の継続
8		直前の期の時点で債務超過かつ2期連続の赤字決算とならない	借入依存度の圧縮、役員借入金のDES(債務の株式化)の実施	★★★	借入依存度の圧縮
9		税理士を利用し、決算および税務に関する書類を適法に作成する	税理士の利用による適法な処理	★★★	決算および税務に関する書類の適法性を維持
10		配当を実施する場合は適法に行う	会社法などの所管法令の基準内の配当	★★★	所管法令の基準内の配当を維持
11		財務の健全化のための具体的な措置をとる	支払条件の改善、借入条件の改善、試算表の作成、買掛債務、売掛債権の管理体制の構築、月次決算の早期化	★★☆	月次決算の早期化
12		取引先に対する優越的地位の濫用した不当な要求、その他の圧迫を行わないための具体的な措置をとる	調達基準の策定、与信管理規程の策定、スポンサーメリットの禁止、取引先接遇マナー研修の実施	★★☆	コンプライアンス研修・セミナーの実施
13		災害に遭遇した場合でも事業を復旧し、継続するための計画や準備をする	BCP(事業継続計画)の策定、防災用品の備蓄、防災訓練の実施	★☆☆	BCP(事業継続計画)の策定
14		従業員とその扶養家族のマイナンバー(個人番号)やその他の個人情報の漏出、不正な変更、法定外目的の利用などを防ぐために、その取得および取扱ルールを定め、技術的な防護措置を講ずる	情報管理規程の策定、PC、スマートフォンなどのセキュリティソフト導入	★★☆	全事業所でのISO27001認証取得
15		顧客情報や業務情報の漏出、不正な変更、法定外目的の利用などを防ぐために、その取得および取扱ルールを定め、技術的な防護措置をとる	情報管理規程の策定、PC、スマートフォンなどのセキュリティソフト導入	★★☆	全事業所でのISO27001認証取得
16		雇用形態に関わらず、全ての従業員と労働条件を明示した労働契約を書面で交わす	雇用契約書の作成	★☆☆	雇用契約の内容見直し
17		雇用形態に関わらず、全ての従業員に関するデータを作成して管理する	労働者名簿の作成	★★★	データの適正管理と個人情報の保護
18		就業規則などの行動規範を定め、従業員が常に参照可能な状態にする	就業規則の策定およびそのアクセスの保障、法改正に伴う規則の見直し	★★☆	法改正に伴う規則の見直し
19		雇用形態に関わらず、全ての従業員の労働時間を把握する体制を敷く	出勤簿の作成、タイムカードの導入、社会保険労務士の利用	★★☆	雇用形態に関わらず、全ての従業員の労働時間を把握する体制の継続
20		記録された労働時間などに基づき、従業員の給与、手当を正確に支払う	賃金台帳の作成、タイムカードの導入、社会保険労務士の利用	★★★	記録された労働時間などに基づく従業員の給与、手当の支払い継続

※No.5は弊社に該当しないため「該当なし」と表記しています。



組織統治



公正な事業慣行



環境



労働慣行



人権



消費者課題



コミュニティへの参画およびコミュニティへの発展

★★★…出来ている
★★☆…改善の余地あり
★☆☆…不十分

No	ISO26000	指標	目標	2016年結果	2017年以降の目標
21		サービス残業などの「事実上の無償・強制労働」を予防するための具体的な措置をとる	職場パトロールの実施、タイムカードと業務用PCの一体的管理、残業申請制度の導入	★☆☆	職場パトロールの実施、残業申請制度の導入
22		従業員の1週間当たりの労働時間が法定労働時間の範囲内である又は適法な手続きによって法定労働時間の上限を延長する	タイムカードの導入、三六協定の実施	★★★	適切な三六協定の継続
23		過重労働を防止するための具体的な措置をとる	有給休暇取得率の目標値設定、ノー残業デー、在宅勤務などの柔軟な勤務体制の実施	★☆☆	ノー残業デー実施率向上、有給休暇取得率の目標値設定
24		労働災害を予防するための具体的な措置をとる	KY活動、ゼロ災運動、労災予防の啓発、通勤経路の把握	★★☆	通勤途上の事故防止措置
25		労働災害が発生した場合は、法令に定める官公署への報告および受傷者などへの補償を行う	労働者死傷病報告の作成・提出、労働者災害補償保険による補償	★★★	官公庁への適切な労働者死傷病報告の継続
26		事業所などにおいて従業員の健康的な労働環境を保全するための具体的な措置をとる	禁煙、分煙、休憩所の設置	★★☆	事業所内での全面禁煙
27		事業の再建などにおける従業員の削減や出向、配置転換などは、退職強要行為や嫌がらせを行わず、適法に行う	整理解雇の4要件の充足、実施経過の記録	★★☆	転勤、配置転換など従業員の意思を尊重し行う
28		人事考課において、法令に定める権利の行使を理由とした実質的な報復措置および性別、障がい、疾病、国籍、学歴、宗教、支持政党などを理由とした差別を行わない	人事考課基準の策定および明示	★★☆	人事考課基準の見直し
29		法令で対象とされる全ての従業員に対し、法定健康診断を受診させる	対象者の受診	★☆☆	再検査者の受診徹底特定診断
30		セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの人権侵害を予防するための具体的な措置をとる	就業規則への禁止事項追加、ハラスメント防止の啓発、セミナーの受講、相談・通報窓口の設置	★☆☆	就業規則への禁止事項追加
31		法令に定める従業員のストレスチェックを実施する	法令に定めるストレスチェックの計画策定と実施	★☆☆	ストレスチェックの実施
32		製品やサービスの生産に関するトラブルを回避し、品質を安定させるための具体的な措置をとる	業務、材料の標準化、作業工程の見直し、QC活動	★★☆	作業工程の見直し
33		製品やサービスの経済性や環境性を追求するための具体的な措置をとる	バリューエンジニアリング、選別受注、取引先・発注方法の見直し、作業工程の見直し、QC活動	★★☆	取引先選定基準、発注方法の見直し
34		製品やサービスの生産に関する作業環境の継続的かつ具体的な改善に取り組む	5S活動、QC活動、クレーム対応制度の構築	★★☆	5S活動の継続
35		製品やサービスの提供プロセス、営業プロセスにおいて、法令で規制されている有害物質の混入や違法な営業行為などを発生させないための具体的な措置をとる	調達方針の策定・明示、検収・作業工程のチェック強化、業務、材料の標準化、営業活動の方針・ルールの策定・明示、知的財産権の利用状況をチェック	★★☆	組織体制・作業工程の見直し
36		製品やサービスに問題が生じた場合、回収、補償などを行う体制を敷く	事業保険、生産物賠償(PL)保険への加入、クレーム対応制度の構築	★★☆	不適合製品・クレーム対応方法の見直し
37		製品やサービスに問題が生じた場合、原因を解明して再発防止策を講じる体制を敷く	問題記録の作成、再発防止策の検討、クレーム対応制度の構築	★★☆	不適合製品・クレームに対する是正処置の見直し
38		受注および発注は記録を作成して管理する	受発注台帳の整備、受発注システムの構築	★★☆	基幹システムの見直し
39		事業における廃棄物の処理を適法に行う	廃棄物処理業者の利用、マニフェストの保管	★★★	産廃適法処理の継続
40		事業における騒音、振動、臭気、汚水、その他の有害物質の排出を法令の基準以内に抑制する	適用法令の確認、法令に適合する設備の設置、設備の法定点検の実施	★★★	法令に適合する設備の設置、設備の法定点検の継続

「静岡市CSRパートナー企業表彰」セルフレビュー60項目(守るCSR:40項目)を引用しています。

2016年 CSR 行動計画

伸ばす CSR【20項目】 社会にプラスの影響を与え、企業価値を伸ばす

★★★…出来ている
★★☆…改善の余地あり
★☆☆…不十分

No	ISO26000	指標	目標	2016年結果	2017年以降の目標
41		中期経営計画などの経営計画を策定し、運用している	中期経営計画の策定、CSR活動と経営計画の一体的取り組み、経営革新計画の認定取得	★★★	CSR活動と経営計画の一体的取り組みを全社に浸透させる
42		従業員同士やその扶養家族などの親睦、慰安を図るための具体的な活動を行う	会社負担による懇親会の実施、社員旅行、社内運動会の開催、社内クラブ活動の支援、扶養家族を含めた福利厚生	★★★	懇親会、社内クラブ活動の支援を継続
43		障がい者の勤務に適した労働環境を整備し、障がい者を雇用する	事業所などのバリアフリー化、法定雇用率以上の障がい者雇用、障がい者雇用促進法に基づく特例子会社の設置、授産事業の開発、障がい者の性質に応じた業務方法の見直し	★★☆	障がい者勤務に適した労働環境の整備
44		定年を設けない又は65歳以上の従業員の就労が可能な状態にする	就業規則における定年の撤廃、高齢者雇用の位置づけ	★★☆	65歳以上の従業員の就労が可能な状態にする
45		従業員の親族以外の女性役員や管理職を常勤させる	常勤する女性役員、管理職の登用、育成計画の策定・実施	★☆☆	女性の管理職育成計画の策定
46		従業員とその配偶者の妊娠や出産、育児などに配慮した労働環境を整備する	出産、育児休暇の取得推奨のための啓発、出産、育児休暇期間の延長、復職体制の整備、育児に伴う就業時間の変更、家族手当の支給	★★☆	出産、育児休暇の取得推奨のための啓発
47		社会的弱者や差別問題への理解を深めるための具体的な行動をとる	ノーマライゼーション教育の実施、啓発	★☆☆	ノーマライゼーション教育の実施
48		研修の受講など、従業員の能力を向上させるための人的投資を行う	社内外における研修の受講、資格手当、資格取得奨励金の給付、大学院・研究機関への派遣、異業種交流会への派遣	★★☆	資格取得支援制度の継続、資格取得の奨励
49		組織内における具体的なCSRの教育・普及活動を行う	CSR教育の実施、部門・担当者に偏らないCSR活動、OJTによるCSR教育	★★☆	部門・担当者に偏らないCSR活動
50		組織の施設運営や業務の管理において環境問題、社会問題の抑制につながる具体的な措置をとる	施設の緑化、省エネ活動、エコカー、LED照明などの省エネ機器の導入、エコ通勤・時差通勤、柔軟な勤務体制の実施	★★☆	勤務体制の見直し
51		環境問題や社会問題に取り組む製品、サービスを提供する	環境問題や社会問題の解決、緩和につながる製品やサービスの製造、販売	★★☆	カーボン・オフセット・サイン、看板ドクターの普及
52		環境問題や社会問題に取り組む製品、サービスの研究開発、投資などを行う	環境問題や社会問題の緩和につながる製品、サービスの研究開発、ソーシャルベンチャー企業への出資・育成	★★☆	カーボン・オフセット・サイン、看板ドクターの改良、新たなサービスの開発
53		環境問題や社会問題に配慮したサービスや資材の調達を行う	調達方針の見直しによるCSR調達の実施、業務に必要なリソースの地産地消、環境負荷が低いサービスや資材の調達、寄付つきのサービスや資材の調達、授産施設、刑務作業の利用	★★☆	CSR調達基準の策定
54		CSR活動の実践に際して、組織外部の多様なセクターと連携する	他社、NPO、市民団体、官公庁との連携によるCSR活動	★★☆	行政と連携した屋外広告適正化、CSRの浸透
55		CSR活動を適切なチャンネルやメディアで発信する	CSRレポートの発行、企業案内・自社サイト、雑誌などへのCSR情報の掲載、CSR・社会貢献関連のイベントへの出席・参加	★★☆	CSR特設WEBサイトの充実、コミュニケーション機能強化
56		CSR活動に関し、組織外部のステークホルダーの声を汲み取るための具体的な行動をとる	地域住民、取引先などとの意見交換会(ステークホルダーダイアログ)の実施	★★☆	日常的なステークホルダーダイアログの実施
57		経済団体、業界団体などに加入し、地元経済界や所属業界の活性化に関与する	商工会議所、法人会、業界団体などへの加入	★★☆	業界団体と協働し、屋外広告物の適正化を図る
58		組織として社会貢献活動などに協力する	災害復興、社会事業、地域の祭礼、環境保全活動、イベント、スポーツ事業、文化事業、学校教育などにおける寄付や労務の提供	★★☆	各事務所で地域貢献活動への参画
59		役員が自ら社会貢献活動に協力する	役員による社会貢献活動への参加	★★☆	役員による社会貢献活動への参加頻度の増加
60		従業員が自発的に社会貢献活動などに参加しやすくするための具体的な支援を行う	ボランティア休暇の付与、ボランティア活動の出勤扱い、活動費の補助	★★☆	ボランティア支援制度の活用促進

「静岡市CSRパートナー企業表彰」セルフレビュー60項目(伸ばすCSR:20項目)を引用しています。

弊社のCSR活動に対する第三者評価

「静岡市CSRパートナー企業表彰」セルフレビュー60項目に基きCSR評価をしていただきました。

アオイネオン株式会社 CSR 評価結果報告書

評価の準拠: 静岡市 CSR パートナー企業表彰制度セルフレビュー
 評価の範囲: アオイネオン株式会社静岡本社
 評価の基礎資料: 静岡本社におけるインタビュー、帳票、物件
 CSRレポート(2015年版)
 CSR特設サイト

評価者: 泉 貴嗣(允治社)
 評価実施日: 2016年10月25日
 ※この評価結果報告書はアオイネオン株式会社のCSR活動を、第三者の視点から評価したものである。その評価の基礎は上掲の資料、物件、人物のインタビューによる。

1. 評価結果

守る CSR (評価結果)		伸ばす CSR (評価結果)		
組織内部	組織文化	2/2	経営戦略	1/1
	組織統治	7/9	ステークホルダー コミュニケーション(1)	1/1
	情報セキュリティ	2/2	ダイバーシティ	4/5
	労務管理	14/15	人的投資	2/2
組織外部	生産管理	3/3	事業の中核における 価値創造	3/4
	製品、サービスの提供 及び調達	4/4	ステークホルダー コミュニケーション(2)	4/4
地域社会	環境経営	2/2	事業周辺における 価値創造	3/3
守る CSR 合計		34/37	伸ばす CSR 合計	18/20
達成率 (%)		91.9%	達成率 (%)	90.0%
総合達成率【(守るCSR34項目+伸ばすCSR18項目)/57】				91.2%

※適用除外項目などは別紙参照



泉 貴嗣 様

CSRコンサルティング事務所「允治社」代表
 第一カッター興業株式会社監査役
 静岡市CSR企業表彰専門委員会 委員長

CSR(企業の社会的責任)エバンジェリスト。大学の研究員、講師としてCSR教育や産学連携教育などを担当した後、独立。哲学や社会学、心理学などをベースにした独特のアプローチによるCSRコンサルティングを行う。自治体が直接企業のCSR経営を認証するはじめての取り組み「さいたま市CSRチャレンジ企業認証制度」、「静岡市CSRパートナー企業表彰制度」の精度設計などを手掛けるほか、JASDAQ上場企業の監査役なども兼務中。
 著述に『CSRチェックリスト読本』(さいたま市刊・監修・執筆)、『(新)CSR検定・3級』(ウィズワークス刊・共著)、『CSR JAPAN』連載コラム「試験にでないCSR」など。

2. 評価結果に対する所見

【守るCSR】
 昨年の評価において、取締役会議事録の要件不備を指摘したが、今回の評価においても改善はなされていなかった。指摘事項自体は軽微で、改善が比較的容易であるため、それ自体を過大にリスク視する必要はないが、軽微な問題が改善されない点については、アオイネオン株式会社のコーポレートガバナンスの弛緩が懸念される。
 また、与信管理においては、風俗店の案件は取り扱わないことになっているものの、その他の要素についてはケースバイケースの判断がなされる点となっている。与信管理は反社会的勢力との関係断絶や信用リスクの適切な管理など、守るCSRを包括的に実現する重要なポイントであるため、一定の水準の与信管理方針を明確にすることが望ましい。
 労務管理において、入社年次が古い従業員との間において雇用契約書が交わされていない問題が見受けられたが、この点については社会保険労務士に相談するなどして、具体的な改善の可否を確認し、リスクの有無を確定することが望ましい。
 ただし、ISOの各種認証を取得していることから、現場の日常業務におけるPDCAサイクルは確立されている。そのため、守るCSRは全般的に良好な水準にある。
 今後は従来よりもコーポレートガバナンスの強化に努めることで、総合的なリスクの低減につなげることが必要だと思考される。

【伸ばすCSR】
 伸ばすCSRに関しては、従来から事業の中核において業界が抱える問題点を是正するサービスをラインナップするなど、ESG問題を改善する取り組みを続けており、今後もこの方面への取り組みに注力することが期待される。
 また、多様な業種のステークホルダーとの交流を続けているが、この取り組みは長期的に見れば、同社のブランド価値の向上や、新たな事業機会の可能性につながる非財務的価値、投資的価値を秘めており、今後も継続的に取り組むことによって「利益につながるCSR」の可能性を広げることになると思考される。
 事業の周辺的活動においても、役員が自ら社会貢献活動に参加する、ボランティア休暇制度を検討するなど、評価すべき点は多い。今後とも守るCSRとのバランスを取りながら、伸ばすCSR関連の活動のバリエーションや質を進化させる取り組みが期待される。

【総合所見】

守るCSR、伸ばすCSRとも、その取り組み状況は全般的に良好であるといえる。ただし、今回の評価ではCSRの方法論に関する課題が見受けられた。
 CSRを推進する上で、特に重要なことは「具体的なCSRの方法論」である。アオイネオン株式会社でも事業計画関連の文書中でCSRの推進について言及しているが、その方法論については、具体性を欠くきらいがある。それは文章技法の「5W1H」でいえば、What(CSR推進の表明)は明確だが、How(CSRの方法論)が明確ではない状況にあるといえる。
 企業活動の全てにおいてCSRが求められる以上、【CSR=経営そのもの】であるともいえる。そのため、CSRの目標だけでなく、一定のレベルの方法論をデザインするのは経営者の重要な職責であるといえる。この職責は、現場の意見を尊重するスタイルでCSRを推進する場合であっても、変わるものではない。むしろ現場を尊重するためにも経営者が率先して具体的な方法論を示し、現場がそれに応えやすくするための環境づくりが重要になる。
 セルフレビューが提示する個々のCSR活動、特に守るCSR関連の活動は定型的活動が主であり、それらはISOを運用することによって自ずと達成できるものが多いが、CSRのあり方、伸ばすCSR関連の活動をデザインするなどのクリエイティブな活動は、ISOの運用のように、定型的活動を管理するツールによって実現できるものはない。
 このようなクリエイティブな活動は現場が解釈に困るほどに抽象的すぎず、かといって現場の一挙手一投足を規定する、細かすぎるCSRの方法論ではなく、事業の状況に適したレベルの方法論を必要とする。そのため、今後はその方法論をより具体的なものへと進化させることが期待される。

(以上)

編集方針

アオイネオンは、企業としての社会的責任と事業活動を通じた社会課題解決への取り組みの成果をご報告し、当社の「社会からの要請に応える力」をステークホルダーの皆様にご理解いただくためのコミュニケーションツールとして、毎年「アオイネオンCSRレポート」を発行しています。

「CSRレポート2016」（本冊子）は、当社のCSRにおける重要な取り組みや進捗のあった活動などを中心に、アオイネオンのCSR活動の全体像をよりわかりやすくまとめています。

アオイネオンCSR特設WEBサイトでは、本冊子よりも詳細な報告に加え、さまざまな情報を網羅的に開示しています。

なお、今後の活動の参考とさせていただくため、当社Webサイトから皆様のご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

■アオイネオンのCSRをご理解いただくために、CSRの考え方を明確に表現するとともに、出来る限り各項目ごとに方針（ポリシー）を記述し、取り組み事例を掲載しました。

■CSRの課題を社内外で確認・共有し、解決する機会として頂戴した第三者意見や第三者評価を掲載しています。

① 対象読者

お客様、お取引様、株主様、従業員、そして地域社会など、様々なステークホルダーの皆様。

② レポート対象範囲

アオイネオン(株)の全拠点（ただし、全項目について全事業所を網羅するわけではなく、テーマに基づいて代表的な事例を掲載しています。

（数値データにはそれぞれの対象範囲を記載しています）

③ レポート対象期間

2015年度（2015年8月1日～2016年7月31日）とし、一部トピックスについては、それ以降の活動も掲載しています。

④ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告書ガイドライン」

環境省「環境会計ガイドライン」

ISO26000:2010

【本レポートのビジュアルについて】



本年度、MUD（メディア・ユニバーサル・デザイン）を学び弊社CSRの考え方である、守るCSR『CSR Standerd』のブルー、伸ばすCSR『CSR Charege』のピンクが色覚障がいのある方には識別しづらいということを知りました。イメージカラーの変更を検討し、色覚チェックを行いました。色覚チェック（右写真）での見え方から既存のイメージカラーを使用し、書体にはUDフォントを使用しました。沢山の方にご覧いただき易いレポートになるように制作しました。（※一部UDフォント以外を使用しております）



本年度CSRレポートの紙は竹紙を使用いたしました。

放置竹林の拡大による森林内や周辺の生物多様性の低下、森林の持つ水源涵養機能の低下、土砂災害・土砂崩壊への影響が大きな社会問題となっています。成長の早い竹ですが、空洞のため伐採、運搬、製紙原料としてのチップ加工等、木材に比べて効率が悪く、現在、日本の製紙会社ではほとんど扱われていません。

竹紙とは、社会問題を解決し、社会に貢献している紙です。



D型(2型)色覚チェック

たくさんのご意見・ご要望をいただきました(抜粋)

・課内で回覧させていただきました。「これだけの情報量をわかりやすく、美しく編集するとは、すごいね！こんなアイコンの使い方もあるんだ。見習わせてもらわなければ」と感激の声がありました。（行政 女性）

・いただいた貴社お取り組みの成果物を、弊社のCSR担当間で再度拝見させていただきましたが、その質の高さに驚きの声が上がっております。今後弊社でCSR活動について検討する際には、是非とも参考にさせていただきます。改めてお願いを申し上げます。（企業 男性）

・御社の重要課題が簡潔にまとめられており、読みやすいレポートだと感じました。（企業 女性）

・いつもながら、ISO26000の国際行動規範を踏まえ、思いのこもった力作ですね。このようなレポートを社内で自社制作しているところも、素晴らしいことだと思います。報告するプロセスを通じて、ますますCSRが社内浸透していきますね。（有識者 男性）

・CSRレポートに関しては40ページもある中身の濃いものであるため索引を設けてはいかがでしょうか。そうすると初めて見る方でも関連付けて読みやすいかなと思います。（学生 女性）

・レポートでは御社の方以外の第三者がとて多く登場している印象で、それだけでも御社が日頃よりステークホルダーと良好な関係を築かれていることを窺い知ることができました。また、個人的には静岡市のCSRセルフレビューの結果を掲載していることが他のレポートにはないことで新鮮に感じました。敢えて申し上げると指標に対する具体的な行動結果が簡単にでも記載されているとより良くなるのかなとも思いました。しかしながら、ここまでの内容を一中小企業が作成するのはとてもできることではなく、中小企業を対象とした本市CSR施策においても大変参考になりました。ありがとうございました。（行政 男性）

・社長のご挨拶を読んで、レポートが既に13冊目なことに驚きました。歴史がある取り組みですね。内容についても、自らの仕事と社会のかかわりが、自分の言葉で書かれていて感銘を受けました。経営とCSRが、上手く統合されていると感じます。参考にさせていただきます。今後とも、よろしくお願いいたします。（企業 男性）

・CSRレポート拝見させていただきました。内容が濃いですね。弊社では特に、CSR行動計画の指標が非常に参考になります。業界が異なっても、この部分は一緒ですね。また、「伸ばすCSR」「守るCSR」で分けられていて理解しやすいです。（企業 男性）

・冊子は、質感や全体の色使い、頁が段違いになって2部構成を際立たせている点など、紙ならではの存在感に「良いものを頂戴した」と感謝しております。御社レポートには「自社への矜持と愛」があらわれているようです。トップも社員もすべて同じ方向を向いて「自分たちの使命と信念」を全うなさろうとしているため、方針や行動にブレが無いようにお見受けします。事業活動とCSR活動、CSRレポートが「正の相乗効果」になっていて、企業価値を大きくしています。それらが等身大でありながら、最高のコンディション、最大サイズの等身大であることが素晴らしいですね。第三者評価を追加なさったことにも、「現状に甘んじず更なる成長を課す」という意志が感じられます。（企業 女性）

CSRレポート2015へ多数のご意見・ご感想を頂戴しまして誠にありがとうございました。



本レポート・WEBサイトへのご意見・ご感想・お問い合わせはこちら
<https://www.aoineon.com/contact/>

静岡本社 管理部 TEL:054-282-1221 FAX:054-285-5089
お電話でもFAXでもご意見・ご感想いただけますと幸いです。

企業概要

社名 アオイネオン株式会社

創業 昭和26年8月

設立 昭和32年1月

資本金 5,750万円

従業員数 57名（男子46名・女子11名）
※2016年12月現在

代表取締役社長 横山 巖

工場 静岡工場 東京工場

業務内容 ネオン・広告塔・館内サイン
企画・設計・施工・検査診断



静岡本社・工場
〒422-8076
静岡市駿河区八幡2-11-11
TEL 054-282-1221



東京本社・工場
〒146-0082
東京都大田区池上3-6-16
TEL 03-3754-2111



大阪支店(本町サミットビル3F)
〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町4-3-5 3F
TEL 06-6281-3621



福岡営業所
〒810-0012
福岡市中央区白金1-17-18
TEL 092-523-3660